

「町田市新たな学校づくり推進計画」の一部修正（案）について

～環境変化に適合した、未来へ向けた改善～

1 主旨（別紙 P.1）

児童・生徒数の予想を上回る減少や学校施設整備費の高騰といった環境変化の中で、適正規模・適正配置と教育環境の整備を着実に推進していくため、2021 年 5 月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」（以下「推進計画」という。）の一部修正を行うものです。

一部修正は、推進計画で示している新たな学校づくりの基本的な考え方は変えずに、直近の児童・生徒推計に則した地区の優先順位付けや学区の変更により、取り組みを環境変化に適合するよう改善するものです。

2 計画変更の背景

（1）児童・生徒数の急激な減少（別紙 P.1）

- ・2024 年度に行った児童・生徒数推計では、推進計画策定時に行った 2020 年度の児童・生徒数推計より、減少のスピードが速まっています。

＜表 1＞ 町田市立小学校の児童・学級数

		2020 年 (実績値)	2030 年 (推計値)	2040 年 (推計値)	2020 年と 2040 年の比較
児童数	2020 年度推計	20,986 人	16,285 人	14,994 人	▲5,992 人 (▲28.6%)
	2024 年度推計		15,770 人	13,955 人	▲7,031 人 (▲33.5%)
	差		▲515 人	▲1,039 人	
学級数	2020 年度推計	674 学級	594 学級	558 学級	▲116 学級
	2024 年度推計		569 学級	525 学級	▲149 学級
	差		▲25 学級	▲33 学級	

＜表 2＞ 町田市立中学校の生徒・学級数

		2020 年 (実績値)	2030 年 (推計値)	2040 年 (推計値)	2020 年と 2040 年の比較
生徒数	2020 年度推計	10,071 人	8,344 人	6,841 人	▲3,230 人 (▲32.1%)
	2024 年度推計		8,300 人	6,549 人	▲3,522 人 (▲35.0%)
	差		▲44 人	▲292 人	
学級数	2020 年度推計	289 学級	249 学級	209 学級	▲80 学級
	2024 年度推計		244 学級	206 学級	▲83 学級
	差		▲5 学級	▲3 学級	

（2020 年度推計は 2020 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳を利用）

（2024 年度推計は 2024 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳を利用）

（2）単学級化・小規模化の進展（別紙 P.2）

- ・単学級化している小学校は、2024 年度の 2 校（小山田小学校、大戸小学校）から、2030 年度には 6 校（つくし野小学校、高ヶ坂小学校、成瀬中央小学校、小山田小学校、山崎小学校、大戸小学校）となる見込みです。
- ・9 学級未満の中学校は、2024 年度の 2 校（真光寺中学校、武蔵岡中学校）から、2030 年度には 5 校（薬師中学校、真光寺中学校、山崎中学校、木曽中学校、武蔵岡中学校）となる見込みです。

(3) 校舎整備費の高騰等（別紙 P.2）

- ・資材等の物価高や人件費の上昇等の影響を受け、2021 年度から 2055 年度までに学校統合による学校施設の建替え・改修にかかる費用は、これまでの約 2540 億円から、2025 年度単価による試算では約 4540 億円へと大幅に増額する結果となりました。
- ・また、建設等にかかる期間については、建設業の労働時間の規制強化による工期の延長から、これまでは原則 3 年であったものが、原則 4 年必要であると整理しました。

3 計画変更の方針

(1) 基本的な考え方（別紙 P.2）

- ・今後、児童・生徒数の減少が予測を上回るスピードで進み、かつ施設整備費が高騰する中で、適正規模・適正配置を推進していくためには、地区ごとの学校統合及び校舎の建替え・改修計画の優先度を明確にすることと、地区によっては、学区の変更により適正規模を維持することが必要です。

(2) 優先度を定める上での指針（別紙 P.3）

- ・2030 年度までに単学級化・過少規模化する学校の統合及び統合新設校の建替え・改修を最優先とし、以下の指針により優先順位付けを行います。

＜優先順位を決定する上での指針＞

- 2030 年度までに、小学校であれば 12 学級未満、中学校であれば 9 学級未満となる学校の統合及び統合に伴う建替え及び改修を優先し、それ以外の学校統合を予定している地区及び統合を伴わない建替校（単独建替校）の計画は延期する。
- 2030 年度までに、単学級化する学校であっても、隣接校との学区変更により、当面上記の基準以上となる学校については、学校統合時期を延期する。
- 単学級化しないまでも、2030 年度の時点で統合対象校双方が小規模化し、今後も児童・生徒数が減少していくことが見込まれる地域を優先する。
- 単独建替校の計画については原則延期するが、コンクリート強度等安全性に課題がある学校は優先する。

(3) 教育環境向上を図るリニューアル工事の実施（別紙 P.4）

- ・現在の計画では、原則、学校統合と同時期に統合校を建替える計画となっていますが、児童・生徒数が予想を上回り減少する中、統合時期と建替え時期が必ずしも一致しない場合があります。また施設整備費が高騰する中、すべての統合校の建替えを短期間で行うことが難しくなっています。
- ・そこで、新たな整備手法として、建物の機能や性能を引き上げ、教育環境を向上させるリニューアル工事を導入します。
- ・導入を検討する基本的な考え方としては、着工時期に概ね築 60 年以上の建物については建替え、築 60 年未満の場合は、老朽化調査の結果によりリニューアル工事を実施することとします。
- ・リニューアル工事をおこなった場合は工事後 20 年間建物を使用することとします。工事の施工期間は 2 ～ 3 か年程度とし、工事費は 30 億円程度とします。

＜リニューアル工事の内容＞

・リニューアル工事は、外壁や内装の改修、ライフラインの更新と併せて、既存校舎をリノベーションし、新しい時代の学びを実現する学習・生活空間を整備することにより、学習環境の向上と老朽化対策を一体で推進していきます。

＜リニューアル工事で求める機能の想定＞

- 新たな教育環境をつくるために、協働的な学習がしやすい部屋の整備や、I C Tを活用できる画像の投影が可能なホワイトボードの設置、内装の木質化、収納スペースの改修
- 教職員がより効果的・効率的に授業の準備や児童・生徒とのコミュニケーションが図れる空間の整備

(4) 財政支出の平準化（別紙 P.5）

・現計画の第2期では、事業期間8年間で、9校の建替え、1校の増築、1校の改修を実施する予定でしたが、計画の一部修正後は、事業期間13年間で、10校の建替え、2校のリニューアル工事を実施することに変更しています。また施設整備工事の着工は、原則毎年度1校とすることと、建替えとリニューアル工事を組み合わせることで財政支出の平準化を図ります。

(5) 計画名称の変更（別紙 P.5）

・推進計画では、学校を「市民生活の拠点づくり」としていくことを理念として掲げています。学校を、学校教育の場であると同時に、身近な避難施設としてはもちろん、地域の方々が日常的に利用できる「地域活用型学校」と位置づけ、その実現を目指します。その理念をよりわかりやすく伝えるために、計画名称を変更します。

＜新たな計画名称＞

町田市新たな学校づくり推進計画

～子どもも大人も、ともに学び、ともに育つ学び舎づくり（「地域活用型学校」の実現に向けて）～

4 今後の予定

4月11日 4月教育委員会定例会において推進計画の一部を修正する議案を提出

<表 3> 学校統合と建替え等の時期（変更後）

小学校の統合・建替え等の時期

期	項番	項番(旧)	学校名 (候補地名)	学校 候補地	基本計画検討着手 目標年度	新校舎使用開始 目標年度	(参考) 想定統合年度
第2期	6	10	南第三 南第四	○	2026	2034	2034
	7	6	小山田 小山田南	○	2026	2035	2035
	8	11	町田第六 高ヶ坂 南大谷	○	2027	2035	2031 第3期に統合
	9	12	町田第四	-	2028	2036	-
	10	9	山崎 七国山 山崎中学校跡地	○	2030	2035	2035
	11	18	成瀬台 成瀬中央	○	2031	2039	2035
	12	20	相原 小中一貫ゆくのき学園（大戸）	○	2032	2041	2037
2033年度以降に基本計画検討着手							
第3期	13	19	藤の台 金井 金井スポーツ広場	○			
	14	13	町田第五	-			
	15	16	忠生第三 木曽境川	○			
	16	15	つくし野 南つくし野	○			
	17	7	忠生 函師	○			
	18	14	鶴川第一 大蔵	○			

中学校の統合・建替え等の時期

期	項番	項番(旧)	学校名 (候補地名)	学校 候補地	基本計画検討着手 目標年度	新校舎使用開始 目標年度	(参考) 想定統合年度
第2期	1	1	薬師 金井	○	2025	2031	2028
	2	2	町田第三 山崎 本町田小学校用地	○	2026	2033	2033
	3	4	鶴川第二 真光寺	○	2030	2038	2034
	4	-	成瀬台	○	2031	2039	-
	5	7	堺 小中一貫ゆくのき学園（武蔵岡）	○	2032	2040	2037
2033年度以降に基本計画検討着手							
第3期	6	-	町田第二	-			
	7	6	忠生 小山田	○			

※「第3期」は、検討着手時期が近づいてきた段階で、改めて社会環境の変化を踏まえた実現可能性を検討するため、詳細な時期は示していません。

※赤字の箇所が変更点です。

<表 4> 学校統合及び建替えの順序（変更前）

小学校の統合・建替え等の時期

期	項番	学校名 (候補地名)	学校 候補地	基本計画検討着手 目標年度	新校舎使用開始 目標年度	(参考) 想定統合年度
第2期 小山田地区等	6	小山田 小山田南	○	2024	2031	2031
	7	忠生 山崎（一部） 図師	○	2025	-	2030
	8	町田第二	-	2025	2032	-
	9	山崎（一部） 七国山	○	2027	2033	2030
	10	南第三 南第四	○	2027	2033	2033
	11	町田第六 高ヶ坂 南大谷	○	2027	2034	2031 2036
	12	町田第四	-	2027	2034	-
	13	町田第五	-	2028	2035	-
第3期 鶴川地区等	14	鶴川第一 大蔵	○	2030	-	2032
	15	つくし野 南つくし野	○	2030	2036	2036
	16	忠生第三 木曽境川	○	2030	2037	2034
	17	町田第一	-	2031	2038	-
	18	成瀬台 成瀬中央	○	2033	2039	2036
	19	藤の台 金井 金井スポーツ広場	○	2033	2039	2039
	20	相原 小中一貫ゆくのき学園（大戸）	○	2040年度までに検討		

中学校の統合・建替え等の時期

期	項番	学校名 (候補地名)	学校 候補地	基本計画検討着手 目標年度	新校舎使用開始 目標年度	(参考) 想定統合年度
第2期 小山田地区等	1	薬師 金井	○	2024	2030	2027
	2	町田第三 山崎 本町田小学校用地	○	2025	2031	2031
	3	南成瀬	-	2025	2031	-
第3期 鶴川地区等	4	鶴川第二 真光寺	○	2030	2036	2036
	5	南	-	2031	2037	-
	6	忠生 小山田	○	2033	2040	2037
	7	堺 小中一貫ゆくのき学園（武蔵岡）	○	2040年度までに検討		

「町田市新たな学校づくり推進計画」の一部修正(案)について ～環境変化に適合した、未来へ向けた改善～

別 紙

1. 主旨

町田市立小・中学校の児童・生徒数の予想を上回る減少や学校施設整備費の高騰といった環境変化の中で、適正規模・適正配置と教育環境の整備を着実に推進していくため、2021年5月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」(以下「推進計画」という。)の一部修正を行うものです。

一部修正は、推進計画で示している新たな学校づくりの基本的な考え方は変えずに、直近の児童・生徒推計に則した地区の優先順位付けや学区の変更により、取り組みを環境変化に適合するように改善するものです。

2. 計画変更の背景

(1) 児童・生徒数の急激な減少

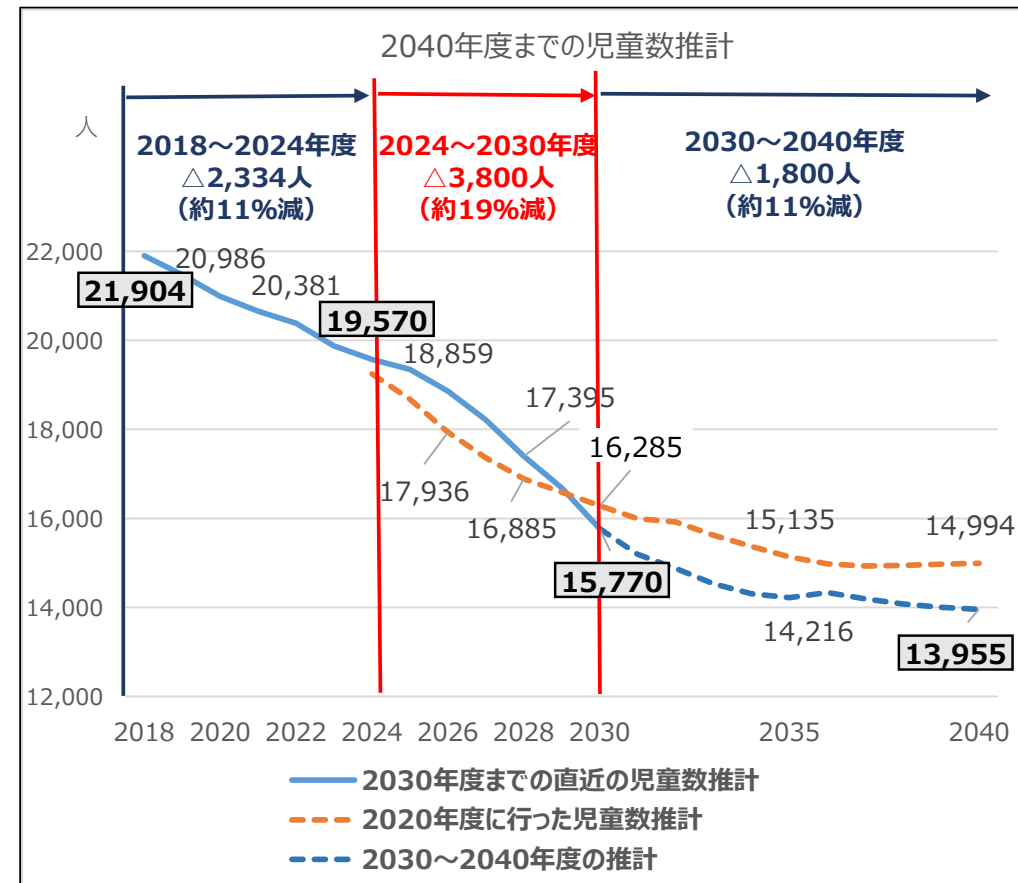
町田市の直近(2024年7月)の児童・生徒数推計では、2024年度から2030年度までの7年間で急激に児童・生徒数は減少します。児童数は、2024年度現在の19,570人から2030年度には15,770人となり、3,800人(約19%)減少する見込みです。生徒数は、2024年度現在の9,658人から2030年度には8,300人となり、1,358人(約14%)減少する見込みです。

2040年度までの推計では、2040年度の児童数は、13,955人(2030年度比約△11%)、生徒数は6,549人(2030年度比約△21%)となる見込みです。

推進計画策定時に行った2020年度の児童・生徒数推計では、2030年度の児童数を16,285人、生徒数を8,344人、2040年度の児童数を14,994人、生徒数を6,841人と見込んでおり、減少のスピードが2020年度推計より早まっています。

(単位：人)

	2024年度推計		2020年度推計	
	児童数	生徒数	児童数	生徒数
2024年度	19,570	9,658		
2030年度	15,770	8,300	16,285	8,344
2040年度	13,955	6,549	14,994	6,841



(2) 単学級化・小規模化の進展

2024 年度で単学級化※している小学校は、**2 校**（小山田小学校及び大戸小学校）ですが、2030 年度には **6 校**（つくし野小学校、高ヶ坂小学校、成瀬中央小学校、小山田小学校、山崎小学校、大戸小学校）となる見込みです。

中学校では、2024 年度で 9 学級未満となっている学校は、**2 校**（真光寺中学校及び武蔵岡中学校）ですが、2030 年度には **5 校**（薬師中学校、真光寺中学校、山崎中学校、木曽中学校、武蔵岡中学校）となる見込みです。

※単学級化：小学校で 1 学年から 6 学年で 1 クラスの学年がある学校

○今後の小規模化の進行状況

小学校	2024年度	小山田小	10学級	大戸小	6学級
-----	--------	------	------	-----	-----



2030年度	つくし野小	8学級	高ヶ坂小	11学級
	成瀬中央小	10学級	小山田小	6学級
	山崎小	7学級	大戸小	6学級

中学校	2024年度	真光寺中	7学級	武蔵岡中	3学級
-----	--------	------	-----	------	-----



2030年度	薬師中	8学級	真光寺中	6学級
	山崎中	6学級	木曽中	8学級
	武蔵岡中	3学級		

(3) 校舎整備費の高騰

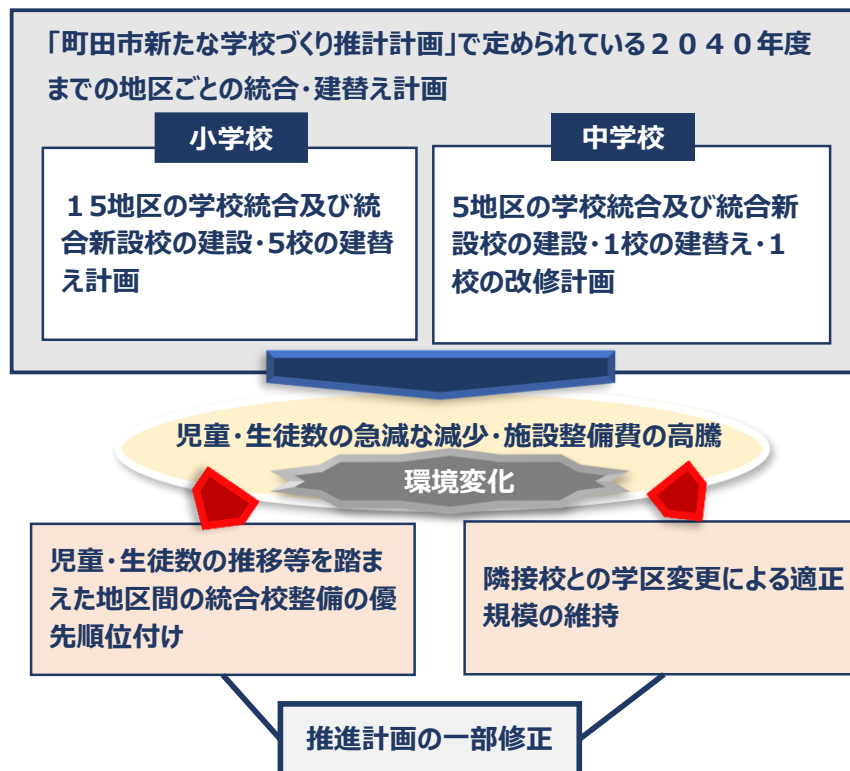
推進計画策定当初、2021 年度から 2055 年度までの建替え・改修にかかる費用は約 2,540 億円と試算していましたが、2025 年度単価による試算結果では、資材等の物価高、人件費の上昇等の影響により約 4,540 億円になると見込んでいます。実際の校舎整備費が数年前と比較して約 2 倍となっています。

件名	延床面積	金額	校舎使用開始年度
現本町田東小の改築工事費	11,800㎡	約99億円	2028年4月
現南二小の改築工事費	10,600㎡	約90億円	2028年4月
町一中の改築工事費（仮設校舎の建設・解体費除く）	11,936㎡	約44億円	2021年9月
鶴一小の改築工事費（仮設校舎の建設・解体費除く）	8,648㎡	約40億円	2016年4月
小山中の新築工事費	10,592㎡	約27億円	2012年4月
図師小の新築工事費	8,204㎡	約23億円	2009年4月

3. 計画変更の方針

(1) 基本的な考え方

今後、児童・生徒数の減少が予測を上回るスピードで進み、かつ施設整備費が高騰する中で、適正規模・適正配置を推進していくためには、地区ごとの学校統合及び校舎の建替え・改修計画の優先度を明確にすることと、地区によっては、学区の変更により適正規模を維持することが必要です。



(2) 優先度を定める上での指針

2030年度までに単学級化・小規模化する学校の統合及び統合新設校の建替え・改修を最優先とし、以下の指針により優先順位付けを行います。

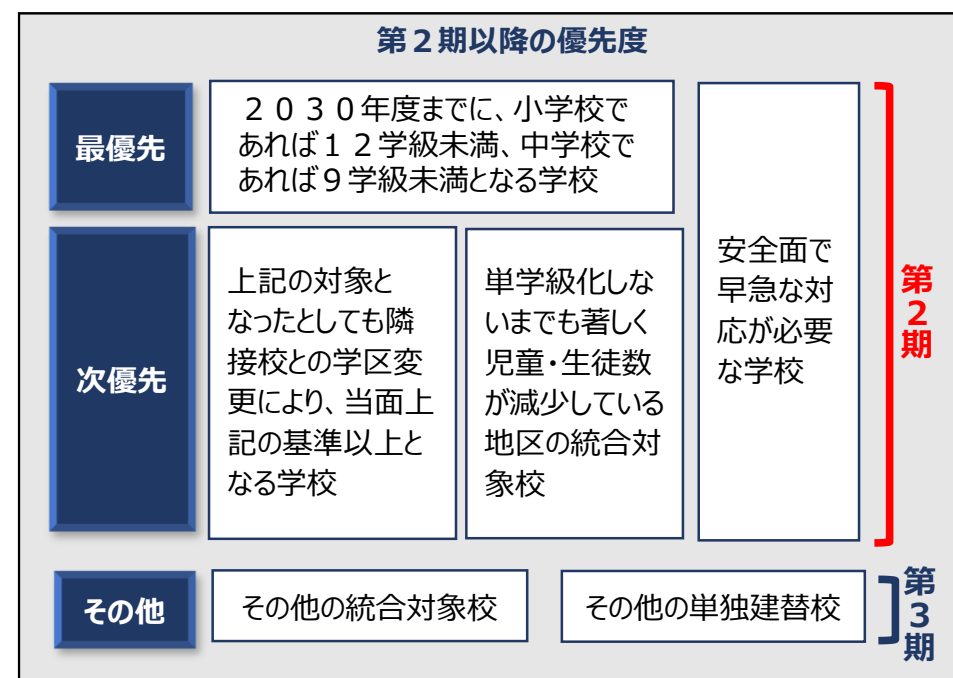
優先順位を決定する上での指針

○2030年度までに、小学校であれば12学級未満、中学校であれば9学級未満となる学校の統合及び統合に伴う建替え及び改修を優先し、それ以外の学校統合を予定している地区及び統合を伴わない建替校（単独建替校）の計画は延期します。

○2030年度までに、単学級化する学校であっても、隣接校との学区変更により、当面上記の基準以上となる学校については、学校統合時期を延期します。

○単学級化しないまでも、2030年度の時点で統合対象校双方が小規模化し、今後も児童・生徒数が減少していくことが見込まれる地域を優先します。

○単独建替校の計画については原則延期しますが、コンクリート強度等安全性に課題がある学校は優先します。



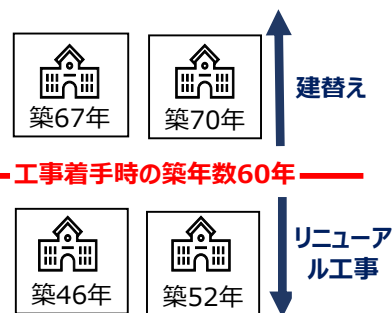
(3) 教育環境向上を図るリニューアル工事の実施

現在の計画では、原則として学校統合と同時期に統合校を建替える計画となっています。

しかし、児童・生徒数が予想を上回り減少する中、統合時期と建替え時期が必ずしも一致しない場合があります。また施設整備費が高騰する中、すべての統合校の建替えを短期間で行うことが難しくなっています。

こうした状況に対応するため、統合校の整備手法として、建物の機能や性能を引き上げ、教育環境を向上させるリニューアル工事を新たに導入します。

建替えとリニューアル工事のどちらを選択するかについては、個々の施設の状況によりますが、基本的な考え方として、着工時期に概ね築60年以上の建物については建替え、築60年未満の場合は、老朽化調査の結果によりリニューアル工事を実施することとします。リニューアル工事をおこなった場合は工事後 20 年程度建物を使用することとします。工事の施工期間は2～3 ヶ年程度とし、工事費は 30 億円程度とします。



リニューアル工事の内容

リニューアル工事は、外壁や内装の改修、ライフラインの更新と併せて、既存校舎をリノベーションし、新しい時代の学びを実現する学習・生活空間を整備することにより、学習環境の向上と老朽化対策を一体で推進していきます。

求める機能としては以下のような機能を想定しています。

- ① 新たな教育環境をつくるために、協働的な学習がしやすい部屋の整備や、ICTを活用できる画像の投影が可能なホワイトボードの設置、内装の木質化、収納スペースの改修
- ② 教職員がより効果的・効率的に授業の準備や児童・生徒とのコミュニケーションが図れる空間を整備

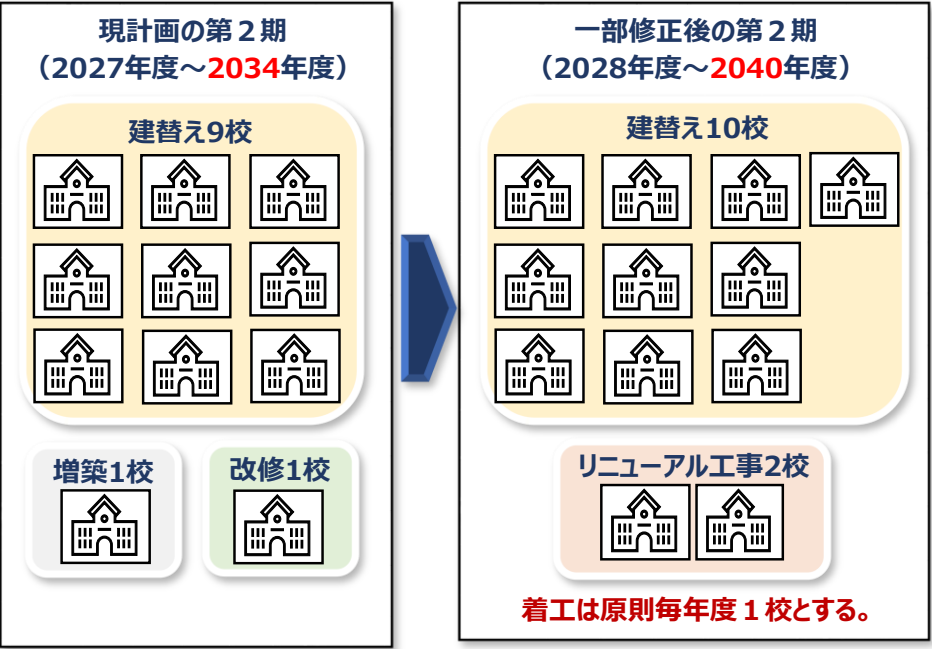
This section displays four examples of school renovation projects. Top-left: A classroom with a large whiteboard and students, labeled 'ホワイトボードの設置' (Whiteboard installation) and '普通教室の改修例 (※1)' (Ordinary classroom renovation example (※1)). Top-right: A hallway with wood-paneled walls, labeled '内装の木質化を含めた改修例 (※2)' (Renovation example including wood paneling (※2)). Bottom-left: A modern library/learning room with bookshelves and study desks, labeled '図書を活用しながら 協働的な学習を展開することができる ラーニングルームの整備例 (※2)' (Example of preparing a learning room where collaborative learning can be conducted while utilizing the library (※2)). Bottom-right: A staff room with desks and chairs, labeled '職員室の改修例 (※1)' (Staff room renovation example (※1)).

上記は改修事例です。実際のリニューアル工事では、学校ごとの既存校舎に合わせ、最適な空間づくりを行います。

<出典>
 ※1: 町田市教育委員会「まちだの新たな学校づくり Machida New Concept School 2040」
 ※2: 文部科学省「学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集」

(4) 財政支出の平準化

現計画の第2期では、事業期間 8 年間で、9 校の建替え、1 校の増築、1 校の改修を実施する予定でしたが、計画の一部修正後は、事業期間 13 年間で、10 校の建替え、2 校のリニューアル工事の実施に変更しています。また施設整備工事の着工は、原則毎年度1校とすること、建替えとリニューアル工事を組み合わせることで財政支出の平準化を図ります。



(5) 第2期に優先的に取り組む地区

推進計画で定めている学校統合及び校舎建替え・改修の計画のうち、第2期に統合校整備を優先的に取り組む地区は以下の11地区とします。

小学校								
地区名	優先順位	統合年度	統合新設校の位置	建築年度	着工年度	着工前年度の築年数	統合新設校の整備の手法	整備期間の仮校舎の位置
小山田小と小山田南小の統合	③	2035	小山田南小	1983	2030	46	建替	小山田南小校庭
南三小と南四小の統合	④	2034	南四小	1966	2030	63	建替	南中校庭
町六小と高ヶ坂小との統合	⑤	2031	町六小	1964	2031	66	建替	高ヶ坂小
町四小の建替え	⑥			1971	2032	60	建替	町四小校庭
山崎小と七国山小の統合	⑦	2035	山崎中	1979	2033	53	リニューアル工事	
成瀬台小と成瀬中央小の統合	⑨	2035	成瀬台小	1974	2035	60	建替	成瀬中央小
相原小と大戸小の統合	⑪	2037	相原小	1968	2037	68	建替	相原小校庭

中学校								
地区名	優先順位	統合年度	統合新設校の位置	建築年度	着工年度	着工前年度の築年数	統合新設校の整備の手法	整備期間の仮校舎の位置
薬師中と金井中の統合	①	2028	金井中	1984	2028	43	リニューアル工事	薬師中
町三小と山崎中の統合	②	2033	現本町田小	1977	2029	51	建替	
鶴二小と真光寺中の統合	⑧	2034	鶴二小	1972	2034	61	建替	
成瀬台小の建替え	⑨			1979	2035	55	建替	
堺中と武蔵岡中の統合	⑩	2037	堺中	1972	2036	63	建替	堺中校庭

※木曽中学校については、学区変更により、2030年度時点で学級数が13学級、生徒数が460人程度となる見込みです。

(6) 計画名称の変更

推進計画では、学校を「市民生活の拠点づくり」としていくことを理念として掲げています。学校を、学校教育の場であると同時に、身近な避難施設としてはもちろん、地域の方々が日常的に利用できる「地域活用型学校」と位置づけ、その実現を目指します。

その理念をよりわかりやすく伝えるために、計画名称を変更します。

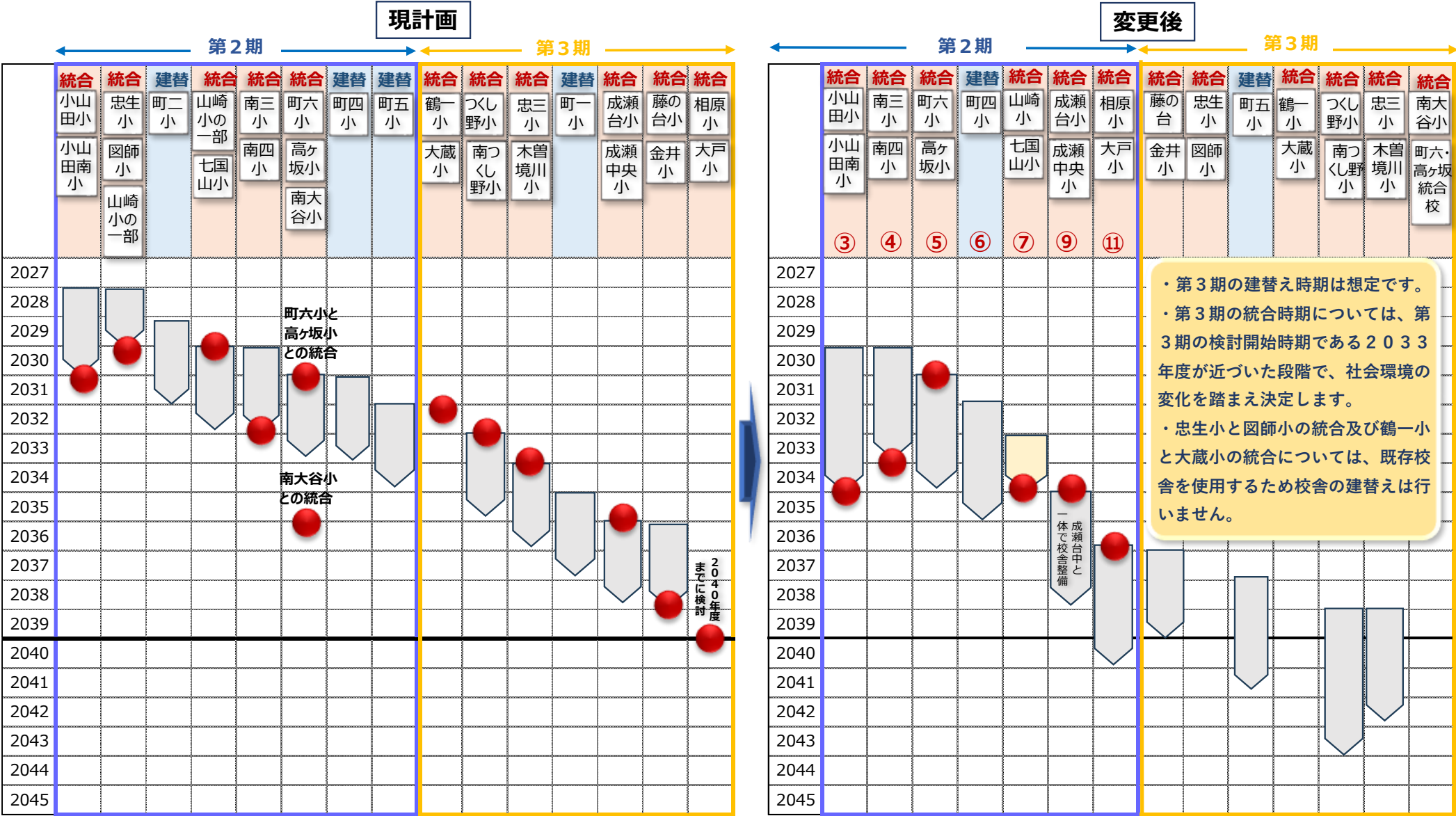
計画名称

町田市新たな学校づくり推進計画
～子どもも大人も、ともに学び、ともに育つ学び舎づくり
（「地域活用型学校」の実現に向けて）～

(7) 学校統合と校舎建替え・リニューアルの時期

○第2期について、小学校と中学校を合わせて優先順位付けを行い、全体で原則毎年度1校施設整備工事に着工する計画に変更します。

小学校 ● 統合時期 ▽ 建替え期間 ▽ リニューアル工事期間 ①～⑪ 第2期の優先順位



中学校



統合時期

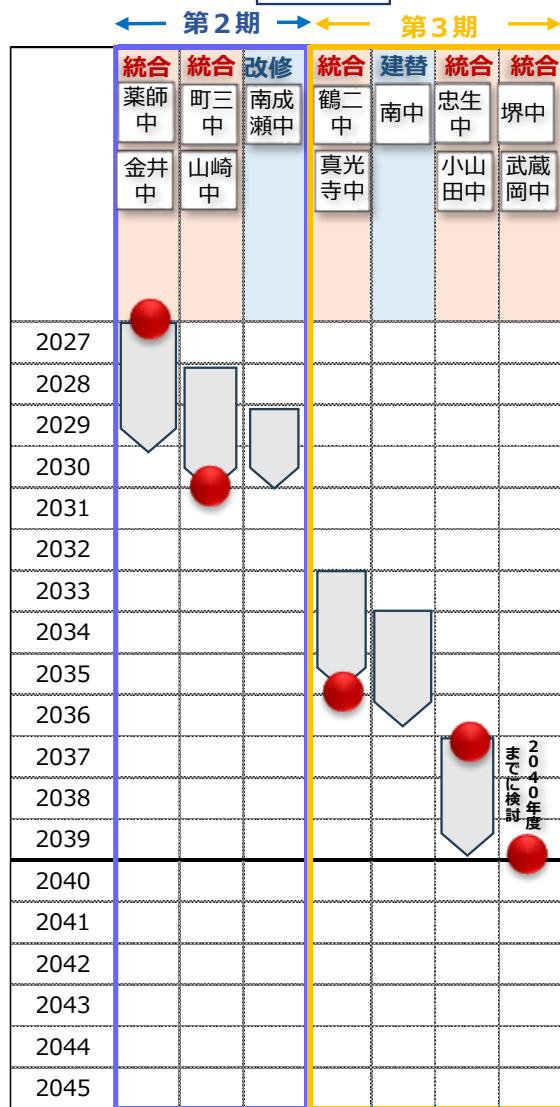


建替え期間

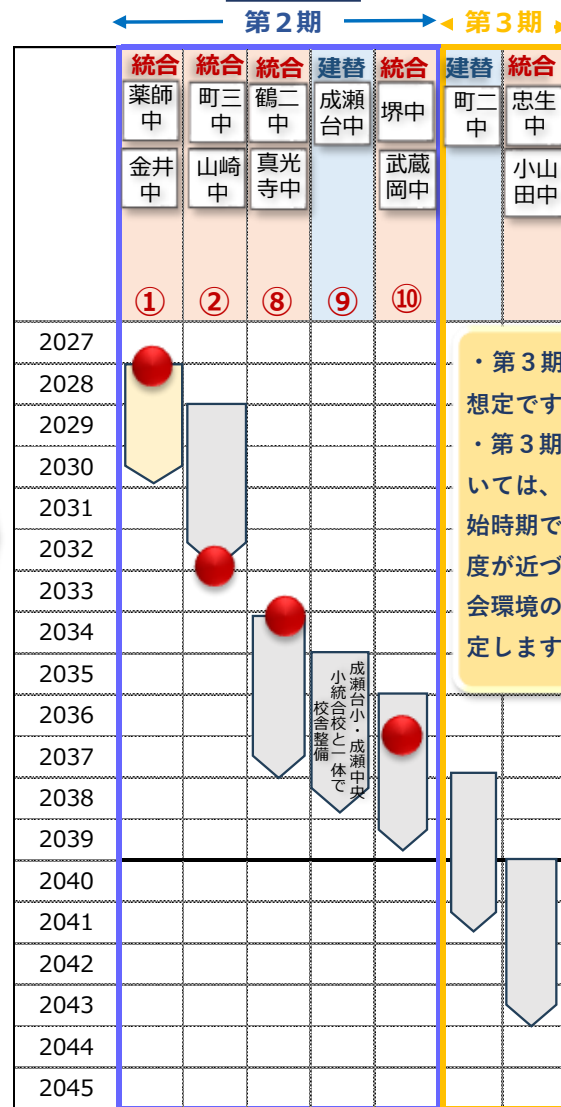


リニューアル工事期間 ①～⑪ 第2期の優先順位

現計画



変更後



- ・第3期の建替え時期は想定です。
- ・第3期の統合時期については、第3期の検討開始時期である2033年度が近づいた段階で、社会環境の変化を踏まえ決定します。

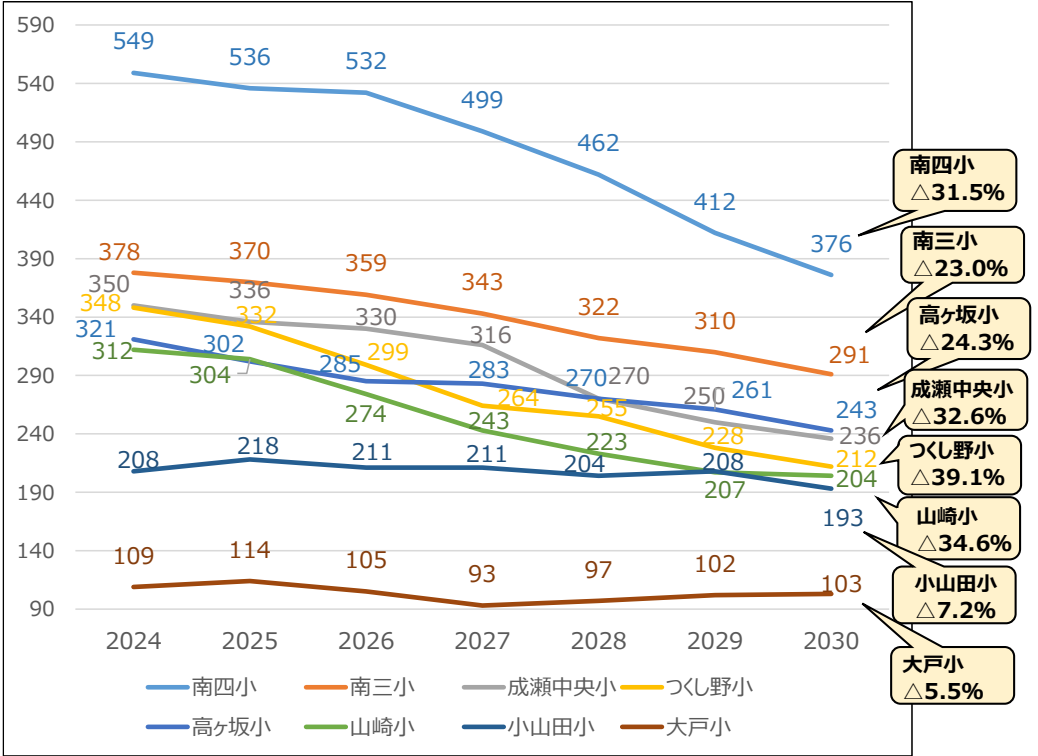
学校統合については、これまでどおり2040年度までに完了します。

本計画に含まれていない、2041年度以降に着工予定の学校の建替えや、改修工事等については、「町田市立学校個別施設計画～学校整備計画編～」において取り組んでいきます。

(8)単学級化、小規模化する学校の今後の児童・生徒数の推移

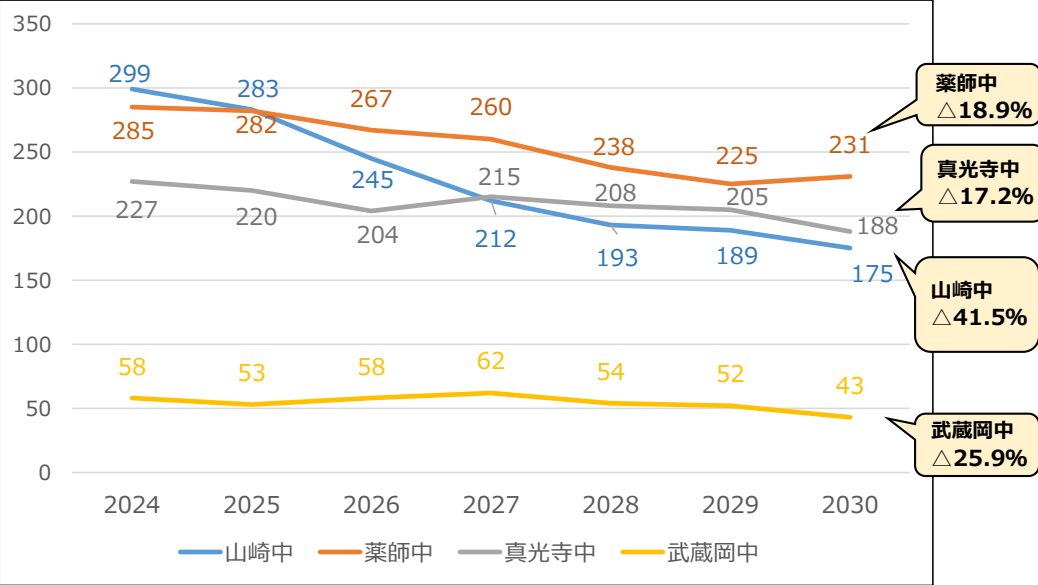
○小学校

学校名	2024年度 学級数	2024年度 児童数	2030年度 学級数	2030年度 児童数	減少割合	取り組み
大戸小	6学級	109人	6学級	103人	△5.5%	相原小との統合
小山田小	10学級	208人	6学級	193人	△7.2%	小山田南小との統合
山崎小	12学級	312人	7学級	204人	△34.6%	七国山小との統合
つくし野小	13学級	348人	8学級	212人	△39.1%	南つくし野小との学区変更
成瀬中央小	13学級	350人	10学級	236人	△32.6%	成瀬台小との統合
高ヶ坂小	12学級	321人	11学級	243人	△24.3%	町六小との統合
南三小	12学級	378人	13学級	291人	△23.0%	南三小と南四小の統合
南四小	18学級	549人	14学級	376人	△31.5%	



○中学校

学校名	2024年度 学級数	2024年度 生徒数	2030年度 学級数	2030年度 生徒数	減少割合	取り組み
武蔵岡中	3学級	58人	3学級	43人	△25.9%	堺中との統合
山崎中	9学級	299人	6学級	175人	△41.5%	町三小との統合
真光寺中	7学級	227人	6学級	188人	△17.2%	鶴二小と統合
薬師中	9学級	285人	8学級	231人	△18.9%	金井中との統合



4. 第2期における変更後の地区ごとの学校統合及び校舎建替え・改修

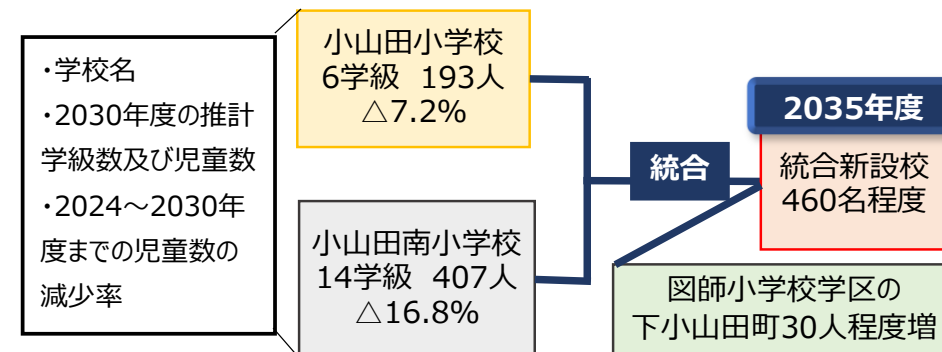
(1) 小山田小学校と小山田南小学校の統合	9
(2) 南第三小学校と南第四小学校の統合	11
(3) 町田第六小学校と高ヶ坂小学校の統合	13
(4) 町田第四小学校の校舎の建替え	15
(5) 山崎小学校と七国山小学校の統合	16
(6) 成瀬台小学校と成瀬中央小学校の統合	18
(7) 相原小学校と大戸小学校の統合	21
(8) つくし野小学校と南つくし野小学校の学区変更	22
(9) 薬師中学校と金井中学校の統合	23
(10) 町田第三中学校と山崎中学校の統合	26
(11) 鶴川第二中学校と真光寺中学校の統合	28
(12) 堺中学校と武蔵岡中学校の統合	29

小学校

(1) 小山田小学校の適正規模化 → 小山田小学校と小山田南小学校の統合

① 計画の変更点

推進計画では、学校統合時に、図師小学校学区の下小山田町を統合校の学区に組み入れることとしています。しかし、組み入れが予定されている2地区のうち、小野路町側の地区については、学区変更を行うことで通学距離が長距離となることから学区変更は行わないこととします。

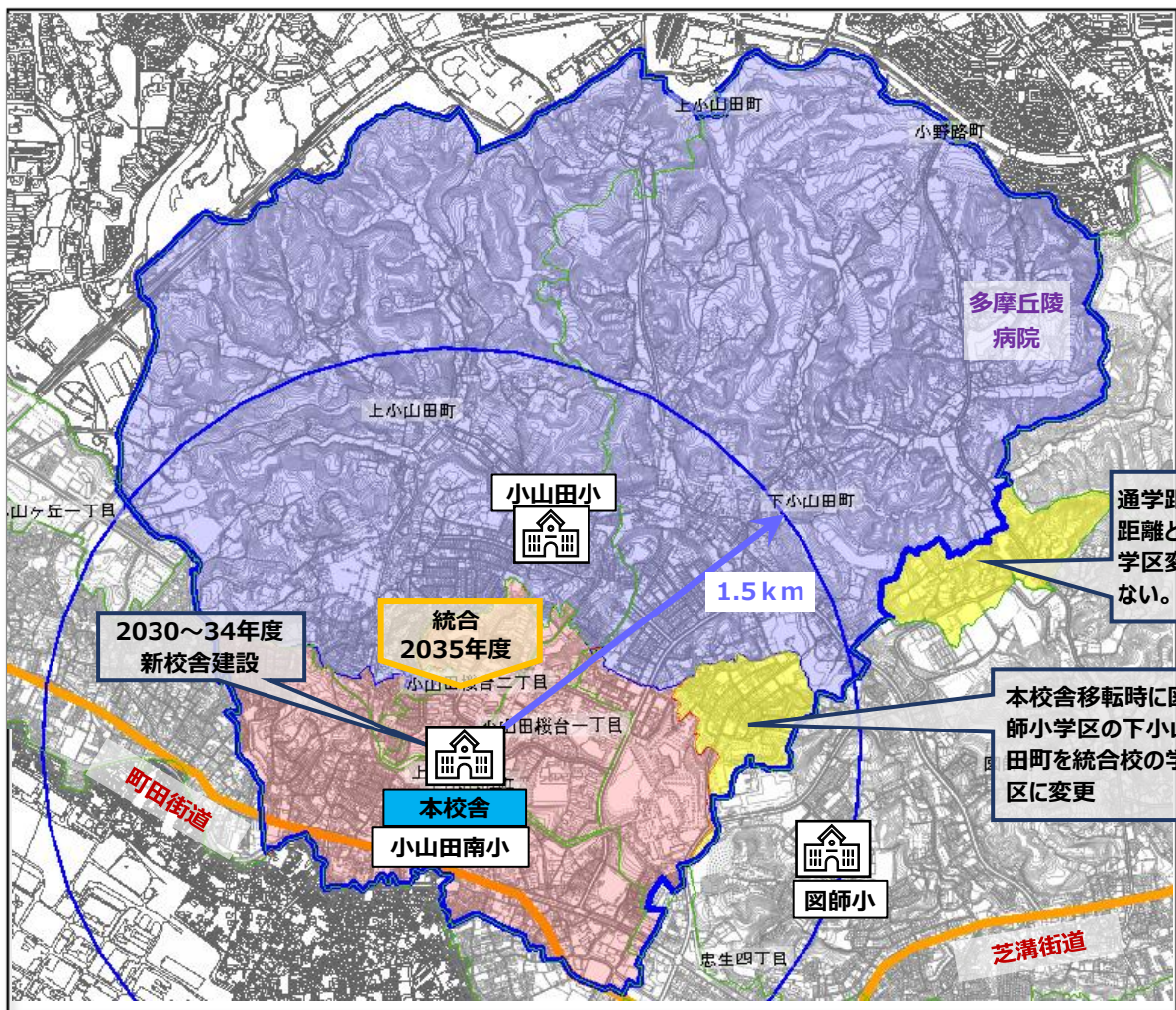


② 変更後の計画の概要

2030年度から2034年度までの5ヵ年で、現在の小山田南小学校の校地に新校舎を建設します。工事期間中は、小山田南小学校の校庭に建設する仮校舎を使用します。2035年度に小山田小学校と小山田南小学校を統合し、新校舎の使用を開始します。

対象	2030	2031	2032	2033	2034	2035
小山田南小	校舎解体及び新築工事					統合 新校舎
	仮校舎					
小山田小						





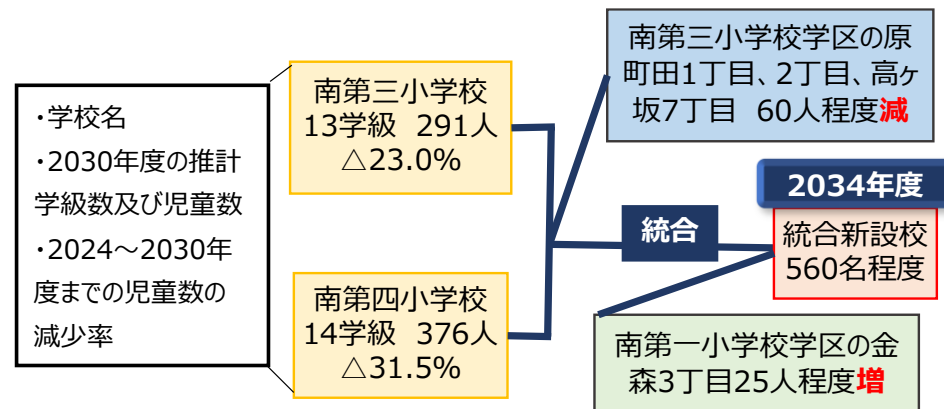
推進計画で定められている学区変更の内容			変更内容
変更前		変更後	
図師小学区の下小山田町 (小野路町側)	→	小山田小・小山田南小 統合新設校学区	通学距離が長距離となるため学区変更を行わない。
図師小学区の下小山田町 (小山田桜台側)	→	小山田小・小山田南小 統合新設校学区	計画どおり

(2) 南第三小学校及び南第四小学校の適正規模化 → 南第三小学校と南第四小学校の統合

① 計画の変更点

南第三小学校と南第四小学校の学校統合に伴い、周辺地区の学区再編について、最新の児童数推計にもとづく適正規模の観点と通学しやすい区割りの観点により、以下の内容に変更します。

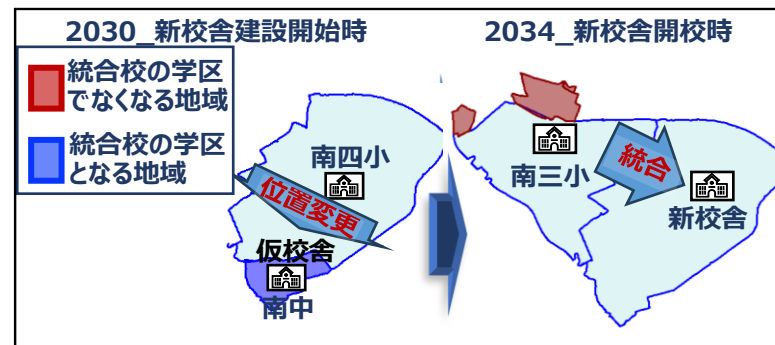
推進計画で定められている学区変更の内容			変更内容
変更前		変更後	
南一小学区の金森3丁目	→	南三小・南四小統合新設校学区	計画どおり
南一小学区の金森6丁目	→	南三小・南四小統合新設校学区	通学距離が長距離となるため学区変更を行わない。
小川小学区の金森東4丁目	→	南三小・南四小統合新設校学区	小川小の方が通学しやすいため学区変更は行わない。
南四小学区の小川2丁目	→	小川小学区	南三小・南四小統合新設校の適正規模の観点、対象地域の通学しやすいの観点から学区変更は行わない。
南四小学区の成瀬が丘2丁目	→	小川小学区	
南四小学区の成瀬が丘3丁目	→	小川小学区	
南第三小学区の原町田1丁目	→	町二小学区	計画どおり
南第三小学区の原町田2丁目	→	町二小学区	
南第三小学区の高ヶ坂7丁目	→	高ヶ坂小学区	



② 変更後の計画の概要

2030年度から2033年度までの4カ年で、現南第四小学校の校地に新校舎を建設します。その間、南第四小学校の児童は、南中学校の校庭に建設する仮校舎※に通学します。2034年度に南第三小学校と南第四小学校を統合し、新校舎の使用を開始します。

※仮校舎については、南一小建替え時に建設するものを使用します。



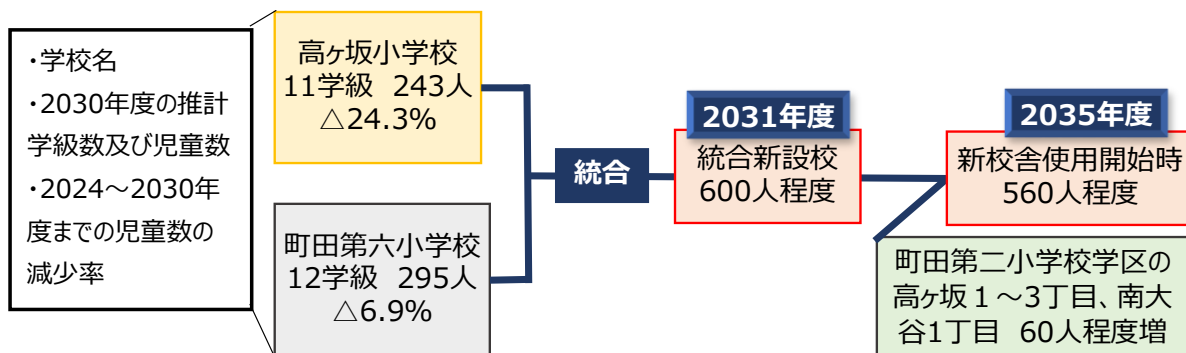
(3) 高ヶ坂小学校の適正規模化 →

町田第六小学校と高ヶ坂小学校の統合

① 計画の変更点

推進計画では、町田第六小学校と高ヶ坂小学校を統合し、その後、南大谷小学校を統合する計画となっています。しかし、南大谷小学校は児童数が500名程度で推移する見込みであり、3校の統合では過大規模となることから、高ヶ坂小学校と町田第六小学校の2校の統合に変更します。

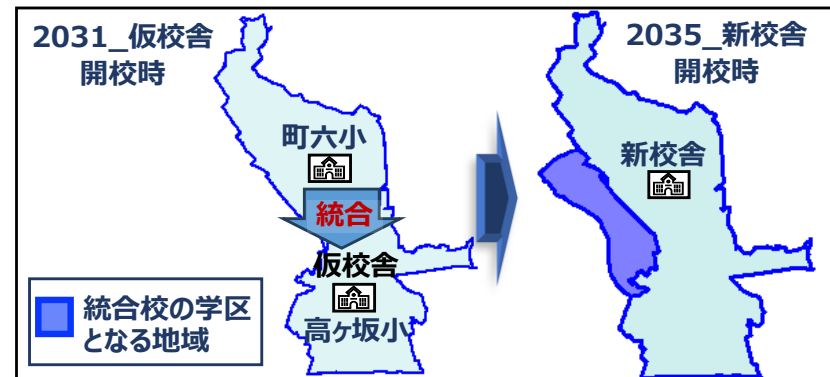
なお、南大谷小学校の統合は、児童数の推移を注視し、第3期に検討します。



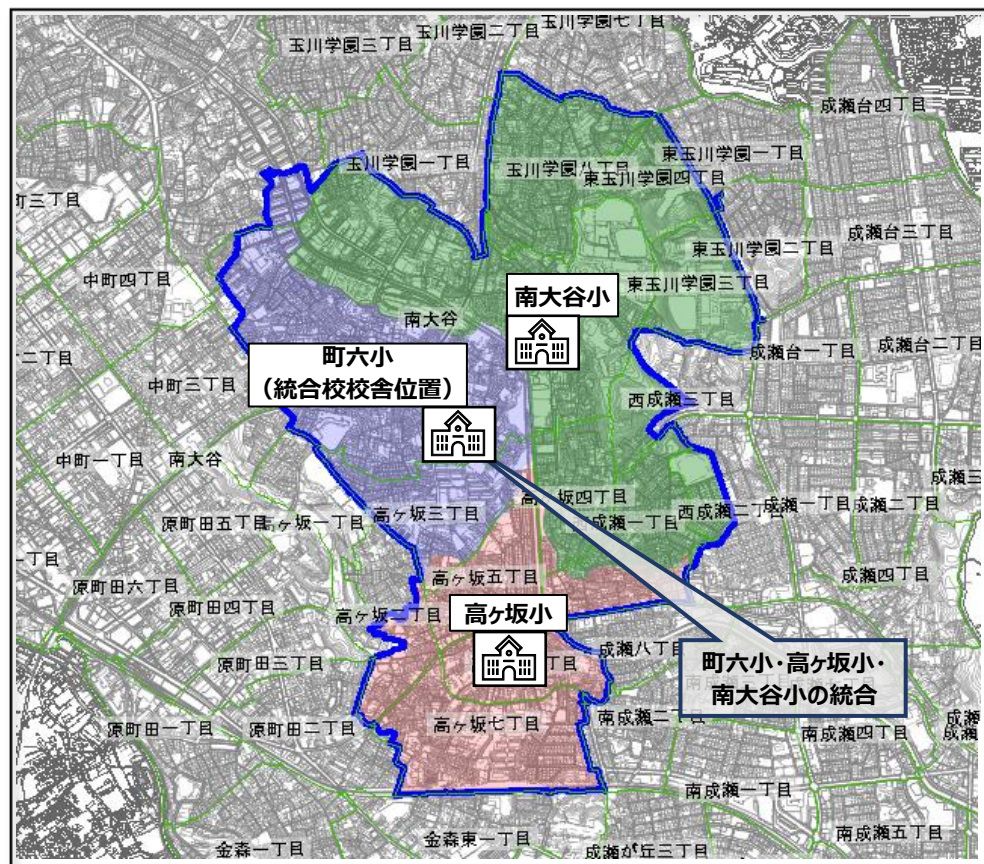
② 変更後の計画の概要

2031年度に町田第六小学校と高ヶ坂小学校を統合し、通学先が現在の高ヶ坂小学校となります。2031年度から2034年度の4ヵ年で、町田第六小学校の校地に新校舎を建設し、2035年度から新校舎の使用を開始します。

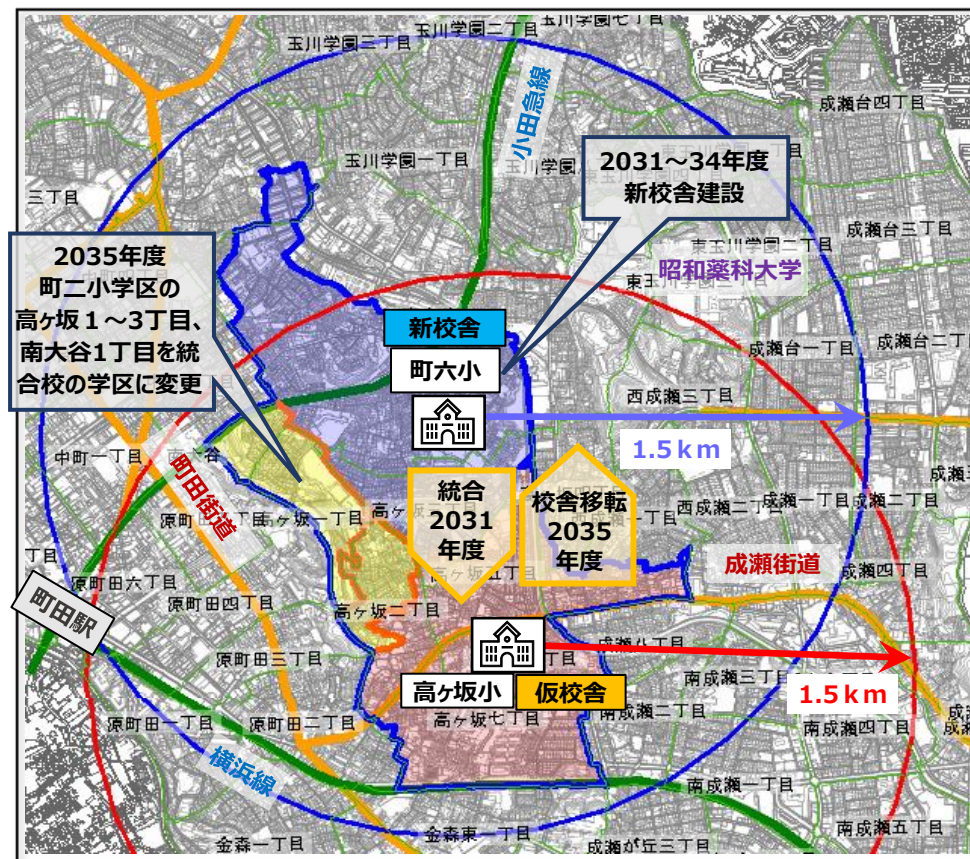
対象	2031	2032	2033	2034	2035
町六小	校舎解体及び新築工事				位置変更 新校舎
高ヶ坂小	統合	仮校舎			



現計画



変更後



○統合に付随する学区変更

変更内容	変更年度
町二小学区の高ヶ坂1~3丁目、南大谷1丁目 → 統合校学区に変更	2035年度

(4) 町田第四小学校の老朽化 → 校舎の建替え

計画の概要

町田第四小学校については、躯体調査の結果、長寿命化に適さないと判定されたため、第2期における建替えが必要です。

2032年度から2035年度の期間に建替え工事を行い、2036年度から新校舎の使用を開始します。工事期間中は校庭に建設する仮校舎を使用します。

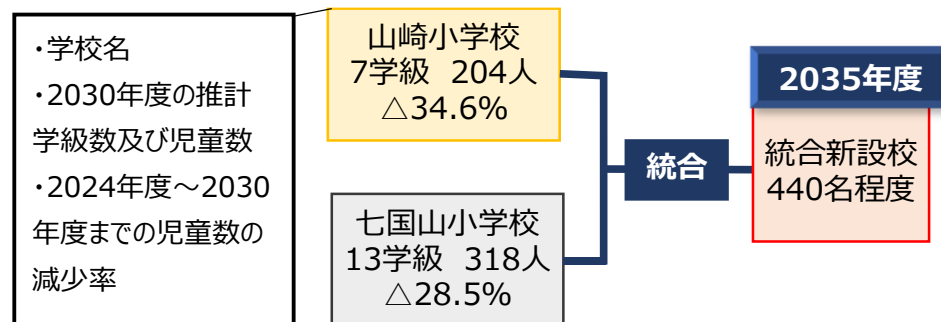
対象	2032	2033	2034	2035	2036
町四小	校舎解体及び新築工事				新校舎
	仮校舎				

(5) 山崎小学校の適正規模化 →

山崎小学校と七国山小学校の統合

① 計画の変更点

推進計画では、山崎小学校の一部と七国山小学校を統合する計画となっていますが、山崎小学校と七国山小学校の双方の児童数が大きく減少していることから、山崎小学校全体と七国山小学校の統合に変更します。

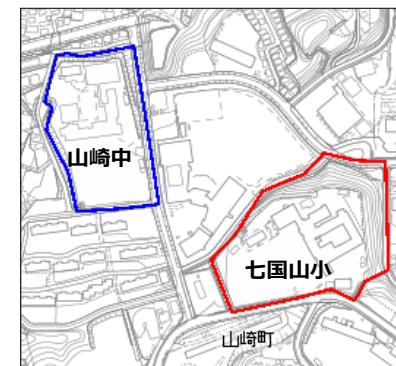


また、リニューアル工事で統合校校舎を整備する場合、本校舎の校舎位置である七国山小学校より、近接している山崎中学校（2032年度に町田第三中学校との統合により廃校）の校舎をリニューアルして整備する方が、よりよい教育環境を整備できるため、校舎位置を山崎中学校に変更します。

単位：㎡

	建物敷地	運動場	校舎	体育館	普通教室の面積	建築年度(年)
七国山小学校	12,827	9,114	6,852	653	60	1975
山崎中学校	11,566	10,476	6,943	1,005	67.5	1979

- ・山崎中学校の方が校舎・運動場・体育館面積が広い。
- ・山崎中学校の校舎の方が普通教室の面積が広い。（建替え後の本町田ひなた小の普通教室の面積は68㎡）
- ・築年数が山崎中学校の方が4年新しい。



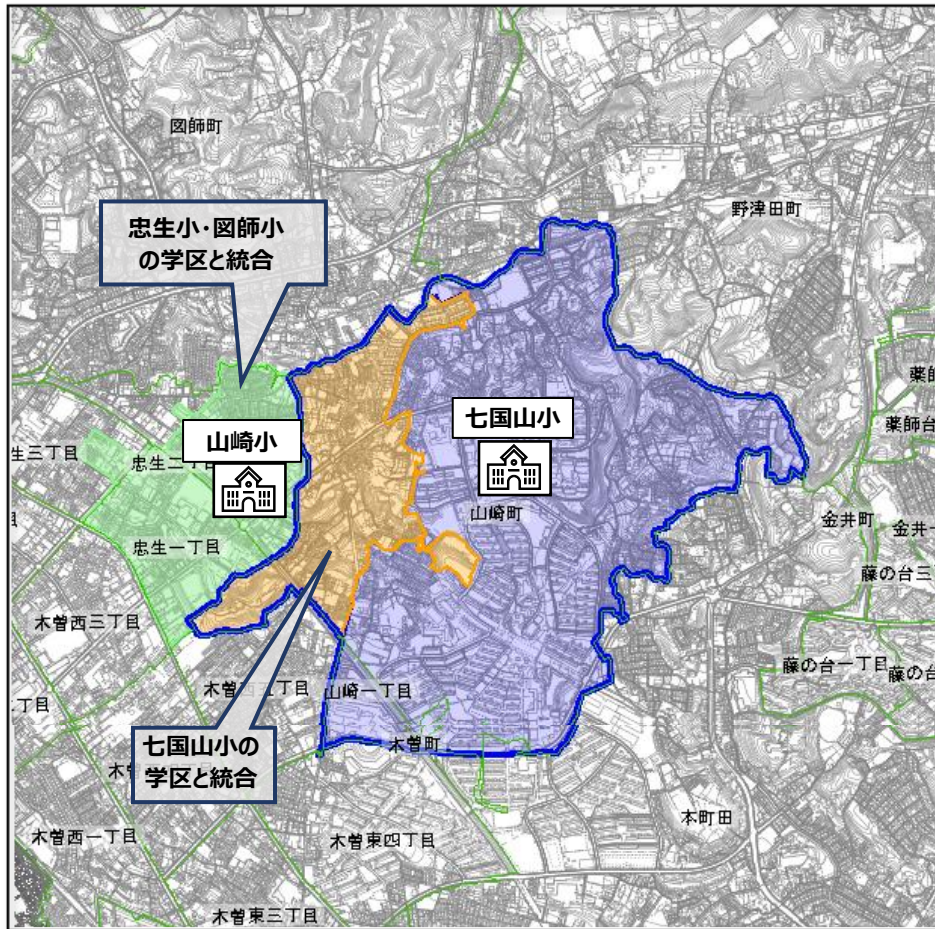
② 変更後の計画の概要

2033年度から2034年度の2ヵ年で、現在の山崎中学校校舎のリニューアル工事をを行います。2035年度に山崎小学校と七国山小学校を統合し、改修後の校舎の使用を開始します。

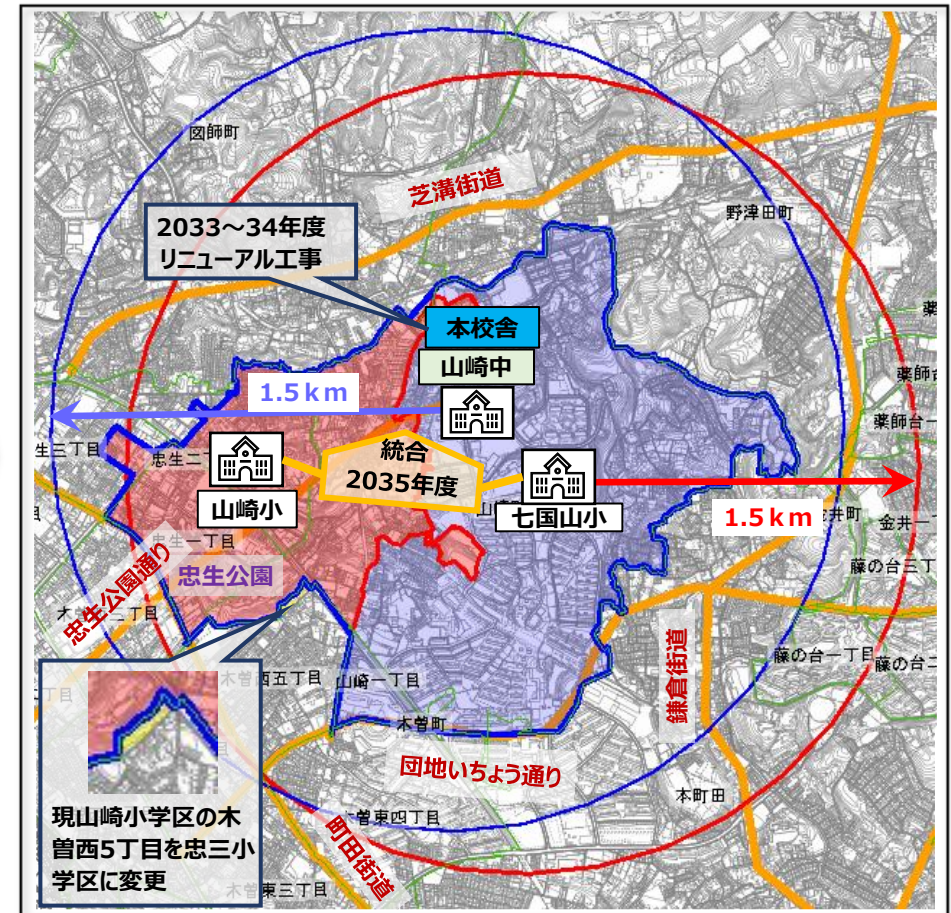
対象	2033	2034	2035
山崎小			↓
現山崎中		リニューアル工事	統合 新校舎
七国山小			↑



現計画



変更後



○統合に付随する学区変更

変更内容		変更年度
山崎小学区の木曽西5丁目→ 忠三小学区に変更		2035年度
関連する中学 校区の変更	忠生中学区の木曽西5丁目 → 木曽中学区に変更	2036年度

※山崎小学校と七国山小学校の統合小学校の継続する中学校の学区についてはP27参照

(6) 成瀬中央小学校の適正規模化 →

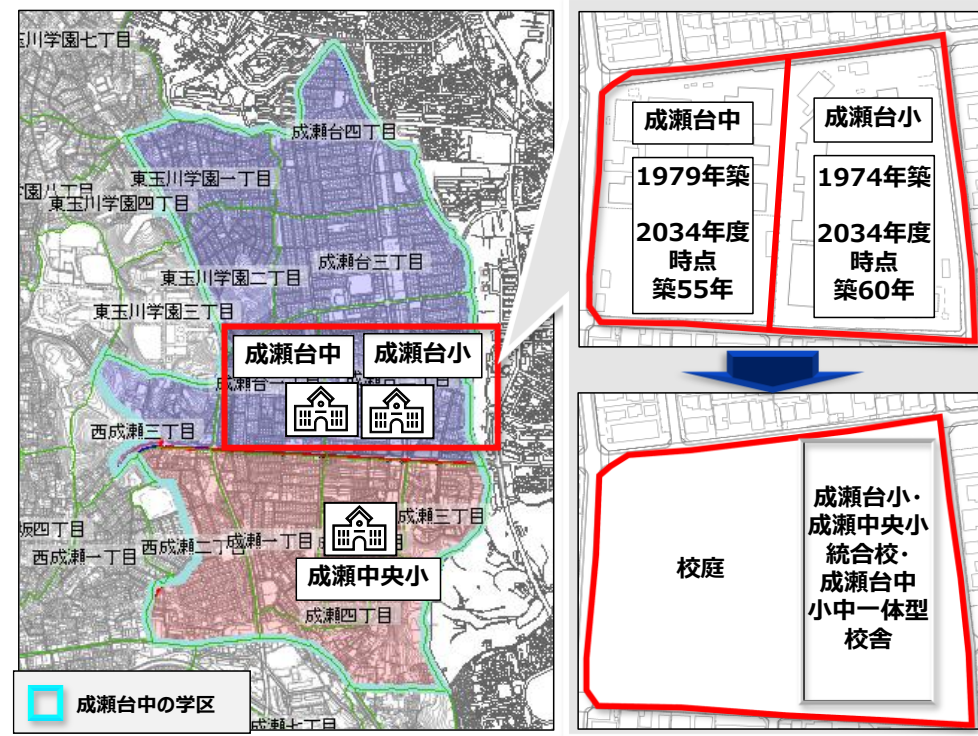
成瀬台小学校と成瀬中央小学校の統合

① 計画の変更点

推進計画では、成瀬台中学校についてより広い用地を確保するため、成瀬台小学校と成瀬中央小学校の統合校を現在の成瀬中央小学校の位置で建替えることとなっています。

しかし、成瀬台中学校の生徒数推計では、2030 年度時点で 417 人・12 学級であり、その後も減少していく見込みであることから、成瀬台小学校用地を確保する必要性がなくなりました。そこで、児童の通学のしやすさから、統合校の候補地を成瀬台小学校に変更します。

さらに、成瀬台小学校は、継続中学校である成瀬台中学校に隣接していること、校舎がともに老朽化していることから、統合校と成瀬台中学校は、1 小 1 中の関係となることから、現成瀬台小学校と現成瀬台中学校の校地を一体で使用した校舎整備を進めます。



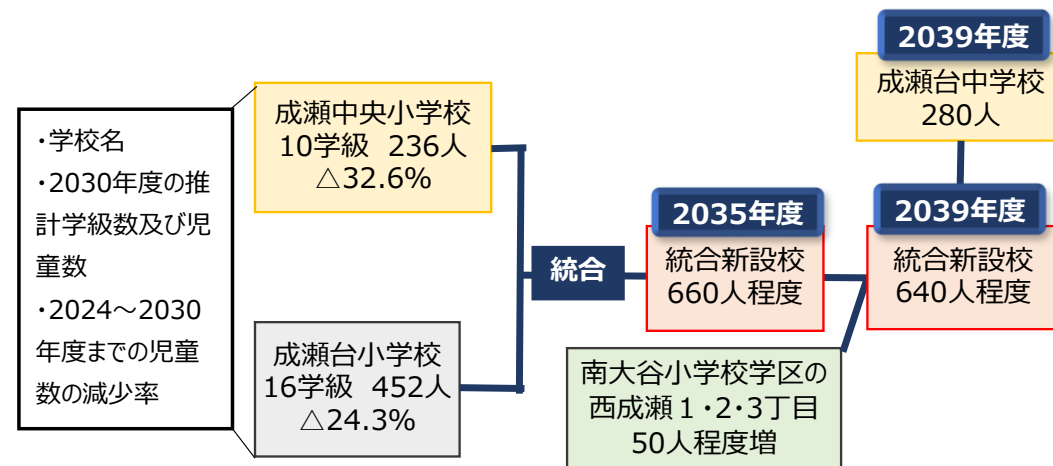
成瀬台小成瀬中央小統合校・成瀬台中 小中一体型校舎の整備イメージ

- ・小学校と中学校の特別教室や運動施設等は共同利用する。
- ・ホール、図書館メディアセンター等を多目的かつ多機能な空間として整備する。
- ・小中学校の教員が一体で利用できる職員室、会議室等を整備する。



② 変更後の計画の概要

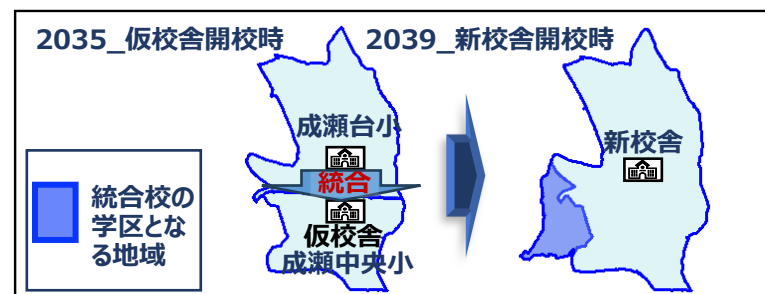
2035 年度に成瀬台小学校と成瀬中央小学校を統合し、通学先が現在の成瀬中央小学校となります。2035 年度から 2038 年度までの 4 ヶ年で、現在の成瀬台小学校と成瀬台中学校の校地に、統合新設校校舎を小中一体型校舎として整備し、2039 年度から新校舎の使用を開始します。

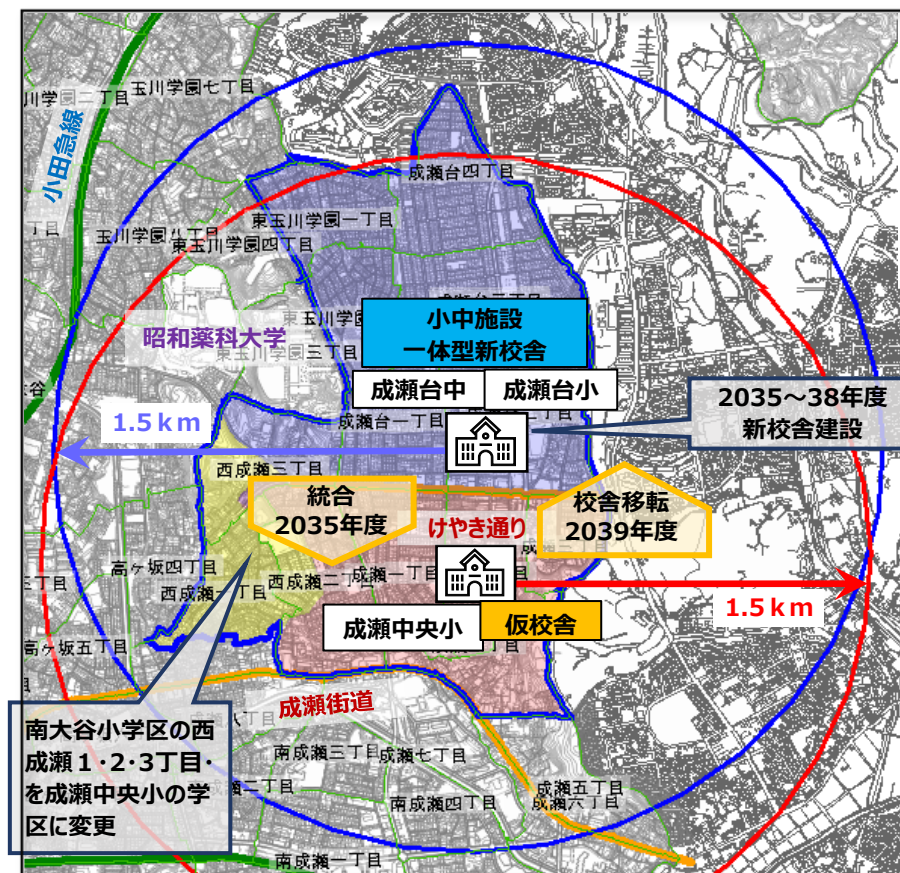


対象	2035	2036	2037	2038	2039
成瀬台中					
成瀬台小					新校舎
成瀬中央小	統合				
			仮校舎		

校舎解体及び新築工事

位置変更





○統合に付随する学区変更

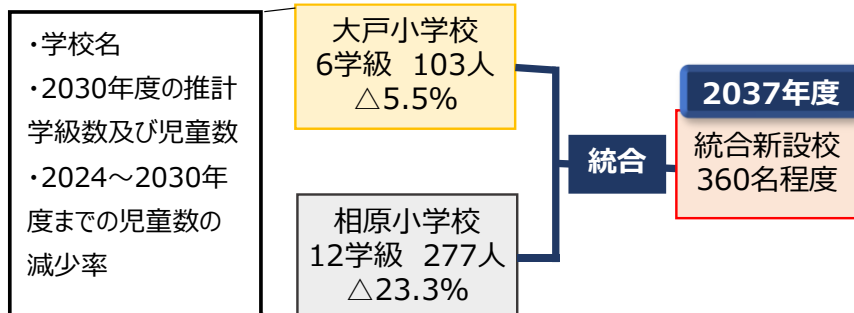
変更内容		変更年度
	南大谷小学区の西成瀬1・2・3丁目 → 統合校学区に変更	2039年度
関連する中学 校区の変更	南大谷中学区の西成瀬1・2・3丁目 → 成瀬台中学区に変更	2040年度

(7) 大戸小学校の適正規模化 →

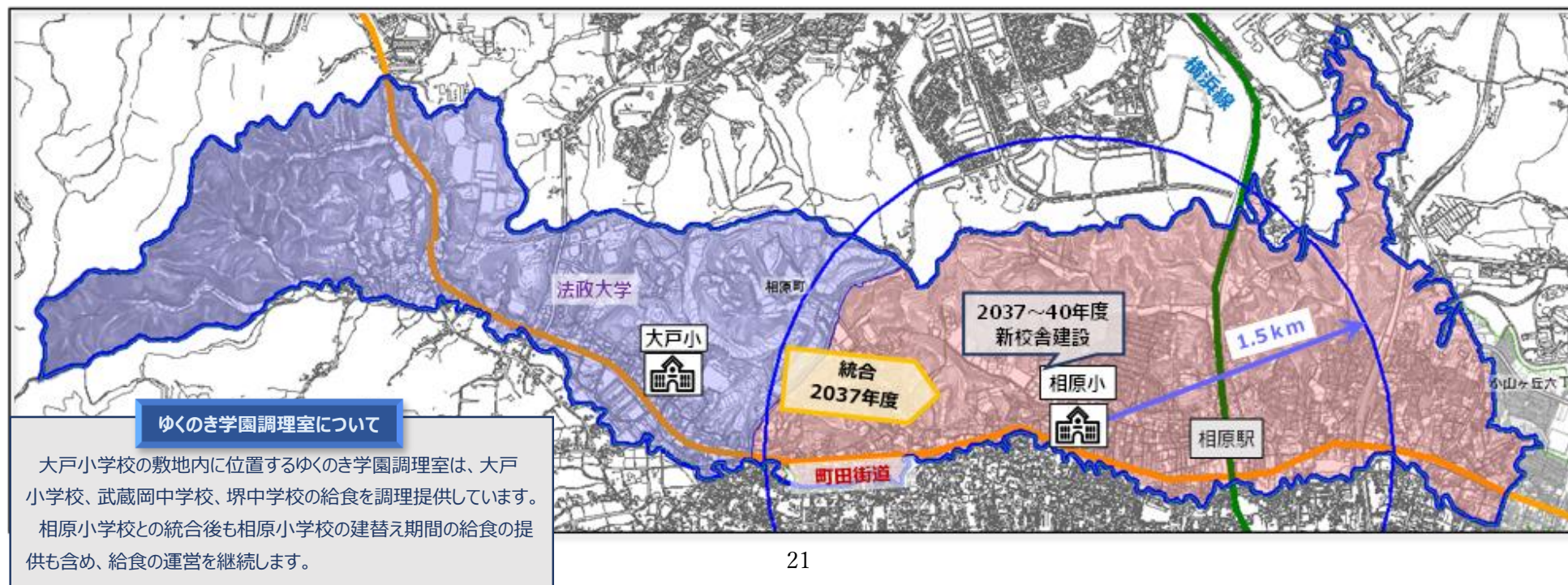
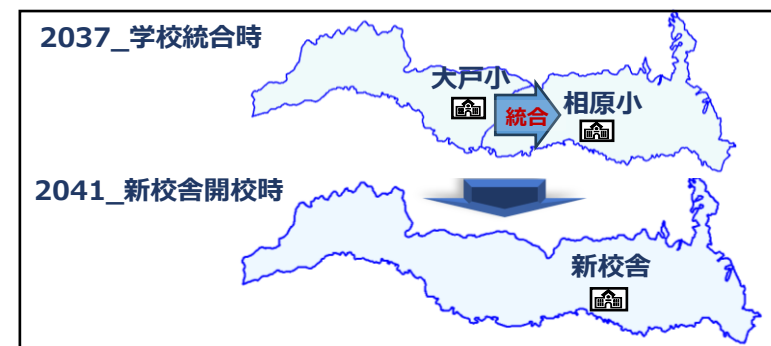
相原小学校と大戸小学校の統合

計画の概要

2037年度に相原小学校と大戸小学校を統合し、通学先が現在の相原小学校となります。2037年度から2040年度の4ヵ年で、相原小学校の校地に新校舎を建設し、2041年度から新校舎の使用を開始します。



対象	2037	2038	2039	2040	2041
相原小	校舎解体及び新築工事				新校舎
大戸小	統合	仮校舎			



(8) つくし野小学校の適正規模化 →

つくし野小学校と南つくし野小学校の学区変更

計画の変更点

推進計画ではつくし野小学校と南つくし野小学校は、2033 年度に統合する計画となっています。しかし、つくし野小学校は、2030 年度には 8 学級 212 人となる見込みであり、適正規模を大きく下回ります。

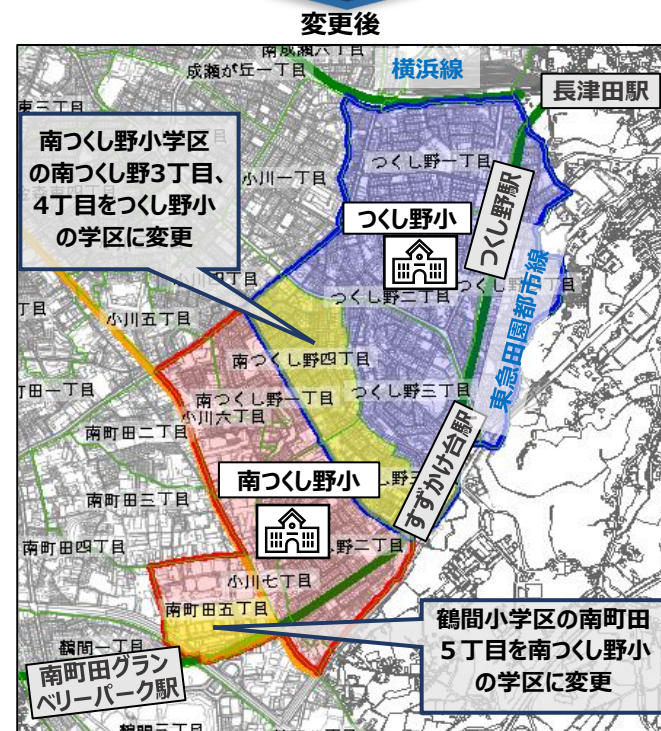
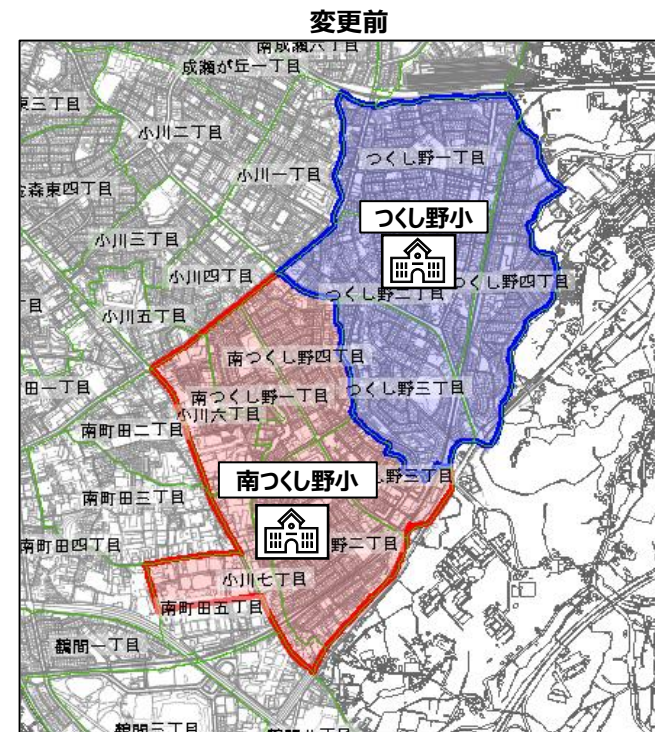
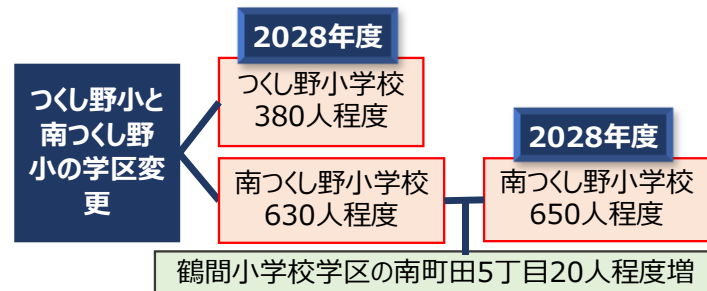
両校を合わせた児童数は、2030 年の時点で 820 人程度であると見込まれているため、つくし野小学校の単学級化が進行する 2028 年度に、つくし野小学校と南つくし野小学校の学区を変更することでつくし野小学校の規模を確保し、統合は第 3 期とします。

その際、鶴間小学校学区の南町田 5 丁目については南つくし野小学校の学区に組み入れます。

○学区変更の内容

変更内容	変更年度
南つくし野小学区の南つくし野 3 丁目、4 丁目 → つくし野小学区に変更	2028年度
鶴間小学区の南町田 5 丁目 → 南つくし野小学区に変更	

・学校名 ・2030年度の推計学級数及び児童数 ・2024～2030年度までの児童数の減少率	つくし野小学校 8学級 212人 △39.1%
	南つくし野小学校 21学級 609人 △28.1%



中学校

(9) 薬師中学校の適正規模化 → 薬師中学校と金井中学校の統合

① 計画の変更点

薬師中学校と金井中学校の統合中学校に継続する小学校は、藤の台小学校、金井小学校及び大蔵小学校ですが、今後、藤の台小学校と金井小学校は小規模化が進んでいきます。両小学校の統合は第3期に行うことを予定していますが、それまでの間、藤の台小学校と金井小学校の適正規模を維持する観点から、薬師中学校と金井中学校の統合時に以下の学区変更を行います。

藤の台小学校、金井小学校及び大蔵小学校の学区変更

○藤の台小、金井小及び大蔵小の学区変更

変更内容	変更年度
大蔵小学区の一部 → 金井小学区に変更	2028年度
金井小学区の一部 → 藤の台小学区に変更	2028年度

・学校名
・2030年度の推計
学級数及び児童数
・2024～2030年
度までの児童数の
減少率

藤の台小学校
12学級 317人
△18.7%

金井小学校
13学級 369人
△28.1%

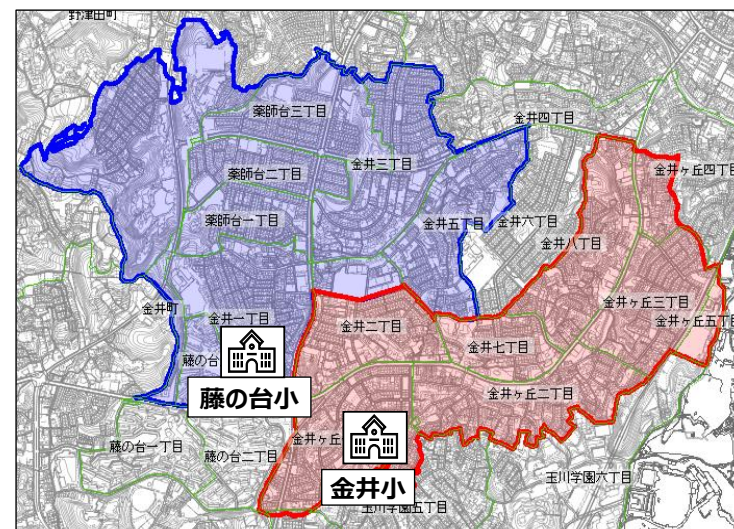
藤の台小、金
井小及び大
蔵小の学区
変更

大蔵小学校学
区の一部
目50人程度増

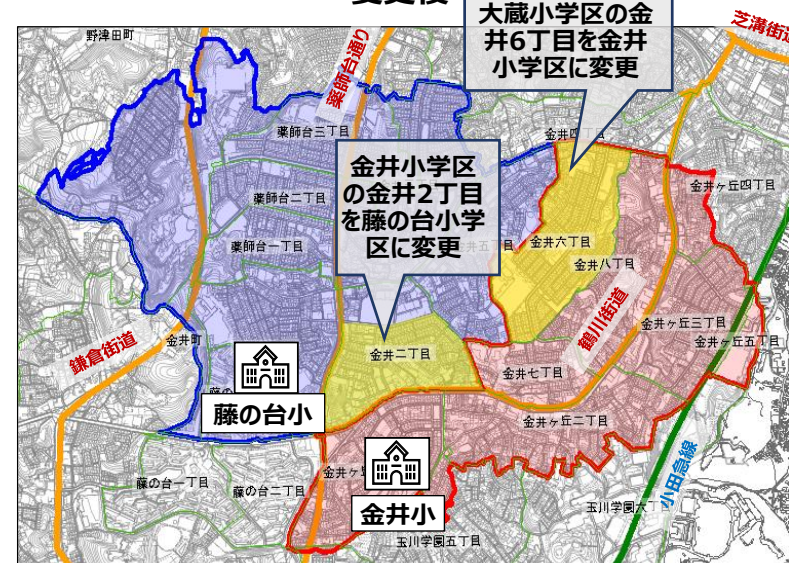
2028年度
藤の台小学校
440人程度

2028年度
金井小学校
410人程度

変更前



変更後

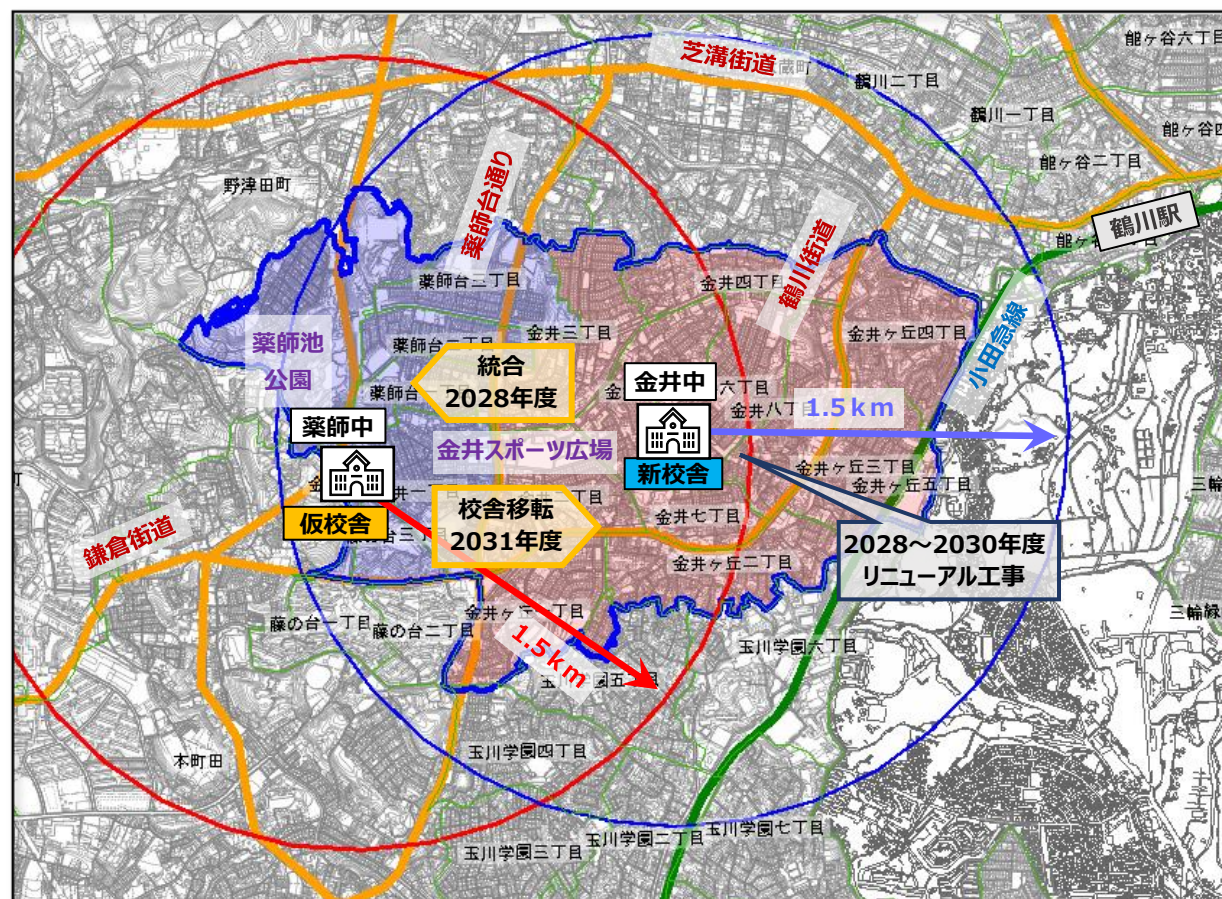
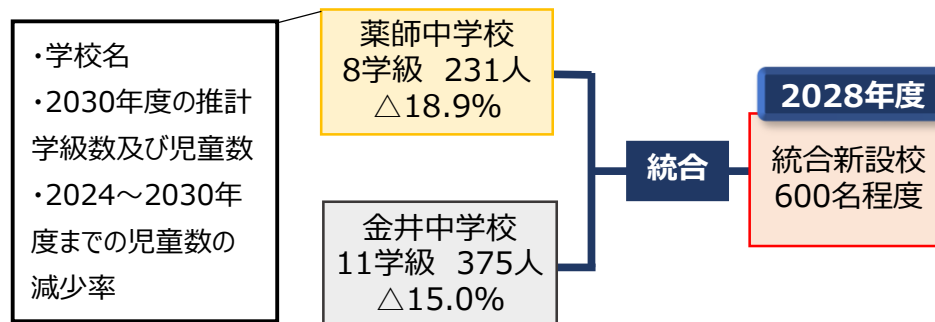
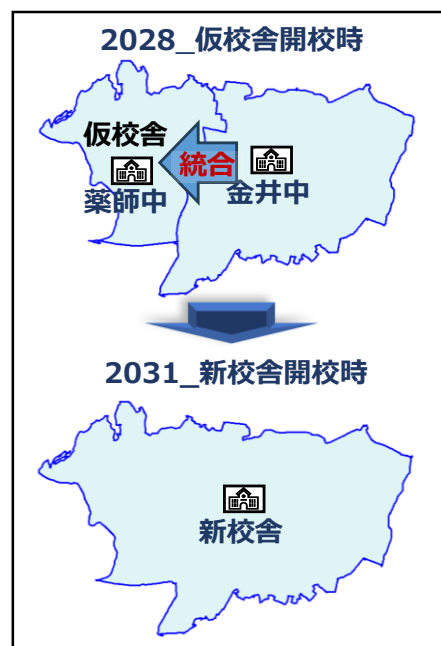
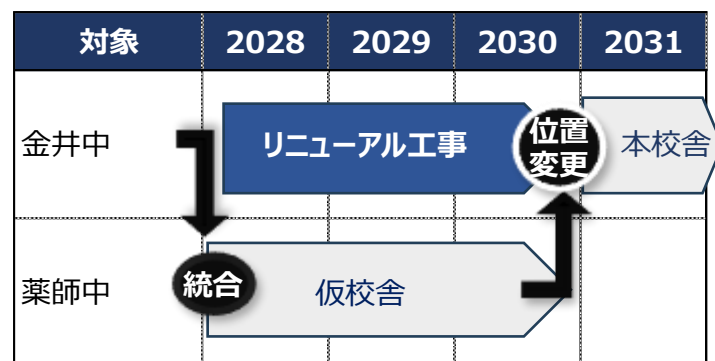


[illegible]

変更を行わない。

② 変更後の計画の概要

2028 年度に薬師中学校と金井中学校が統合し、通学先が現在の薬師中学校となります。2028 年度から2030 年度までの 3 ヶ年で、現在の金井中学校の校舎のリニューアル工事をを行い、2031 年度から改修後の校舎の使用を開始します。



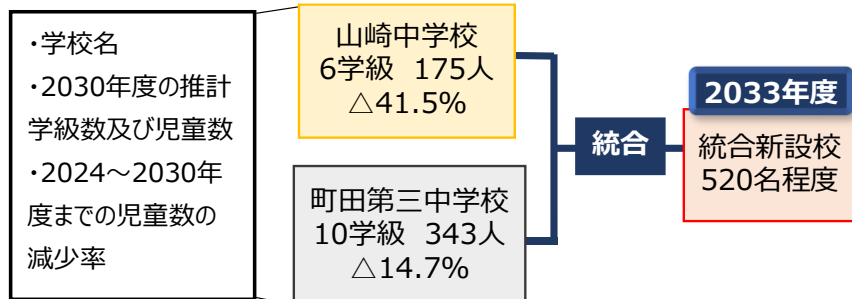
(10) 山崎中学校の適正規模化 →

町田第三中学校と山崎中学校の統合

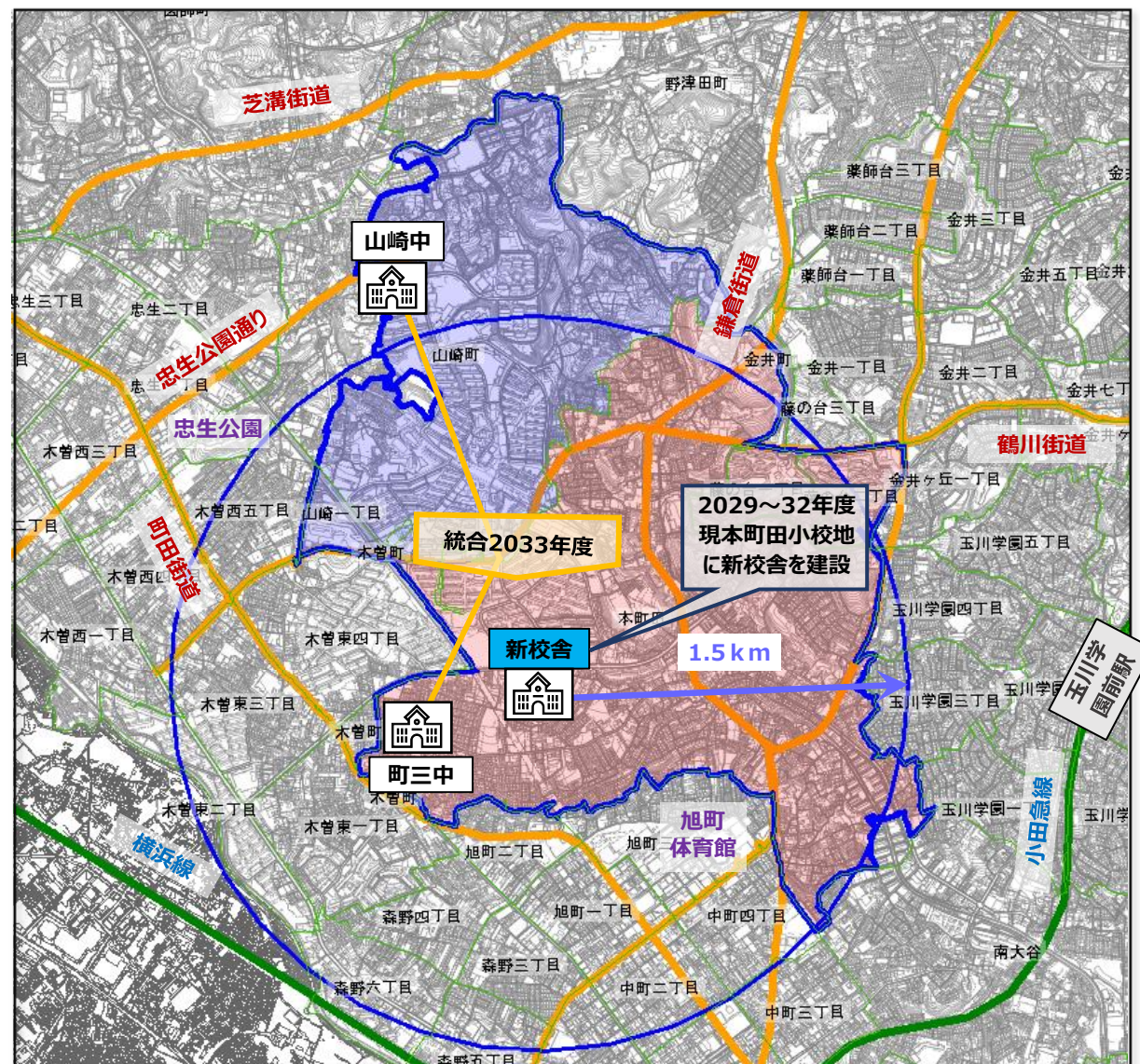
計画の概要

2029年度から2032年度の4カ年で、現本町田小学校の校地に新校舎を建設します。

2033年度に町田第三中学校と山崎中学校を統合し、新校舎の使用を開始します。



対象	2029	2030	2031	2032	2033
町三中					
現本町田小	校舎解体及び新築工事				統合 新校舎
山崎中					

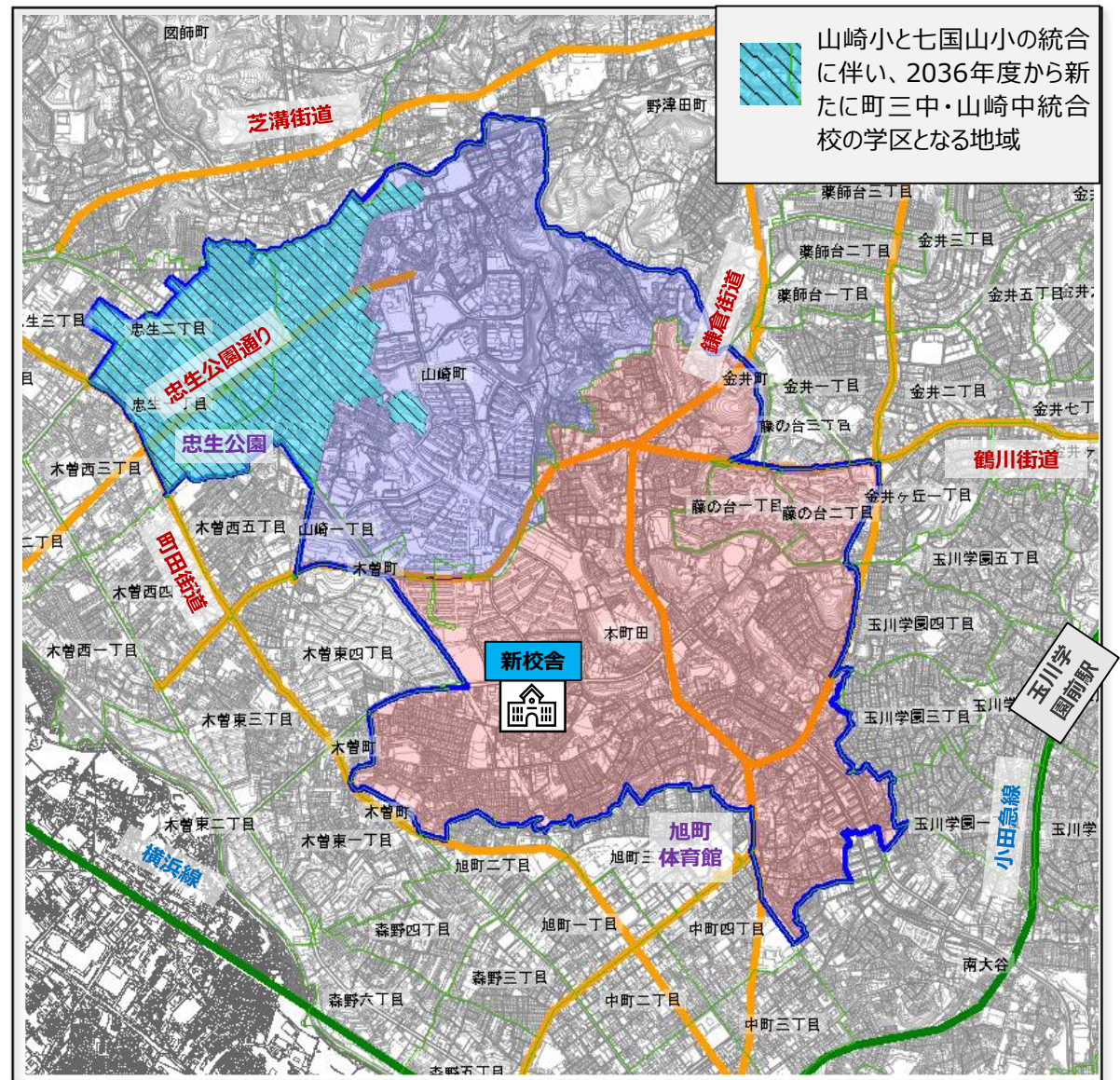
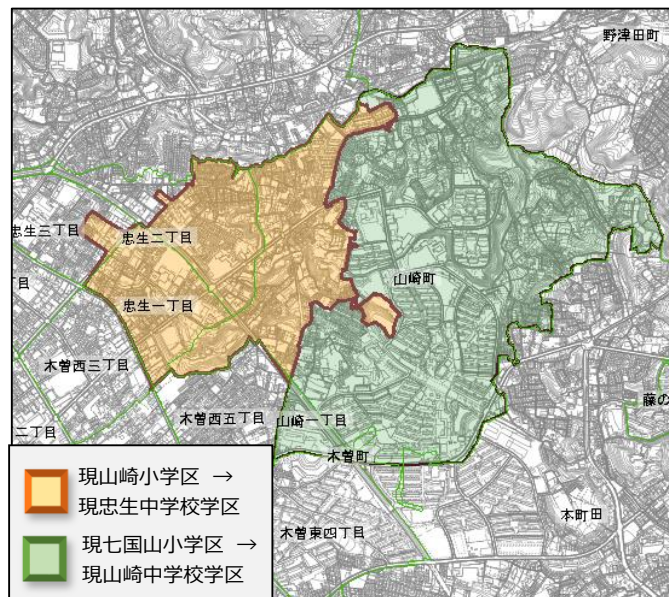


2036年度以降の町田第三中学校・山崎中学校統合中学校の学区

町田第三中学校と山崎中学校の統合中学校の学区については、2035年度の山崎小学校と七国山小学校の統合により変更となります。

現在、山崎小学校の継続中学校は忠生中学校、七国山小学校の継続中学校は山崎中学校となっています。山崎小学校と七国山小学校の統合後は、よりよい人間関係づくりや教育活動の連続性、一貫性の観点から小・中学区の整合を図るため、統合小学校の継続中学校は町田第三中学校と山崎中学校の統合中学校とします。

変更時期は、統合小学校の6年生が中学校に進学する2036年度からとします。

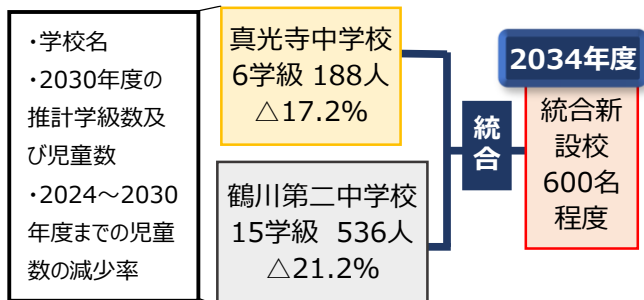


(11) 真光寺中学校の適正規模化 →

鶴川第二中学校と真光寺中学校の統合

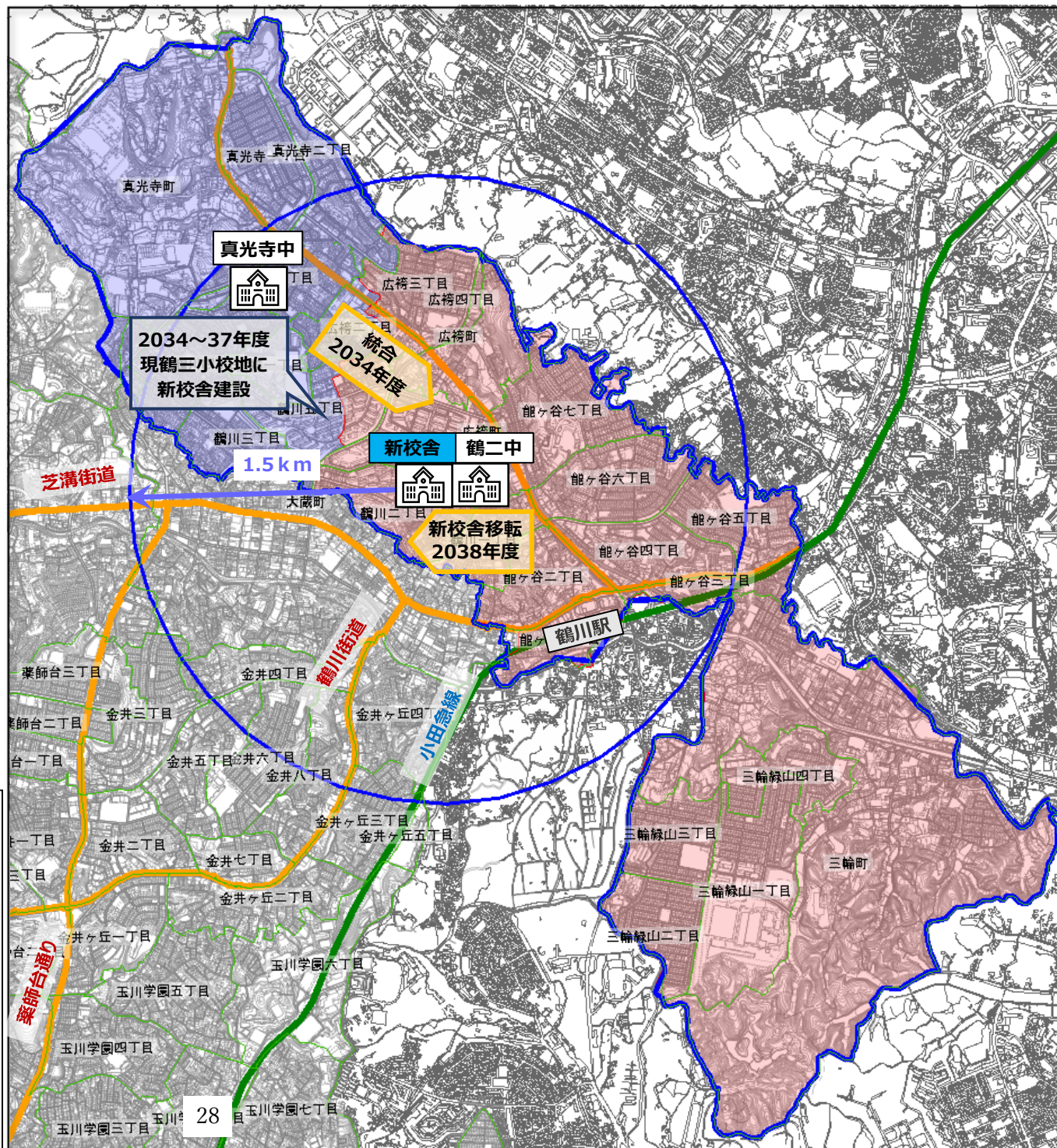
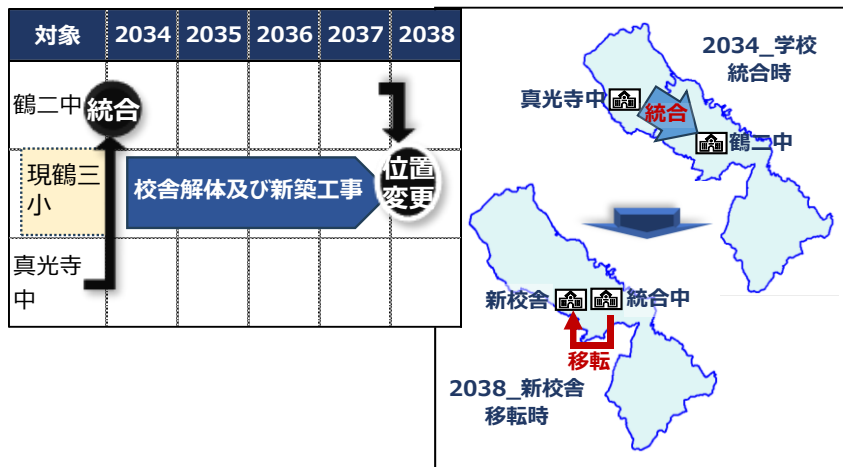
① 計画の変更点

真光寺中学校は、2030 年度に 6 学級 188 人となる見込みとなっており、小規模化が著しく進行しています。そのため統合時期を、推進計画における統合校の新校舎完成時ではなく、建設に着手する 2034 年度とします。



② 変更後の計画の概要

2034 年度に鶴川第二中学校と真光寺中学校が統合し、通学先が現在の鶴川第二中学校となります。2034 年度から 2037 年度の 4 ヶ年で、現在の鶴川第三小学校の校地に新校舎を建設します。2038 年度から新校舎の使用を開始します。



(12) 武蔵岡中学校の適正規模化 →

堺中学校と武蔵岡中学校の統合

計画の概要

2036年度から2039年度の4ヵ年で、堺中学校の校地に新校舎を建設します。2037年度に堺中学校と武蔵岡中学校を統合し、通学先が現在の堺中学校となります。2040年度から新校舎の使用を開始します。

対象	2036	2037	2038	2039	2040
堺中		校舎解体及び新築工事 統合 仮校舎			新校舎
武蔵岡中					

- ・学校名
- ・2030年度の推計学級数及び児童数
- ・2024～2030年度までの児童数の減少率

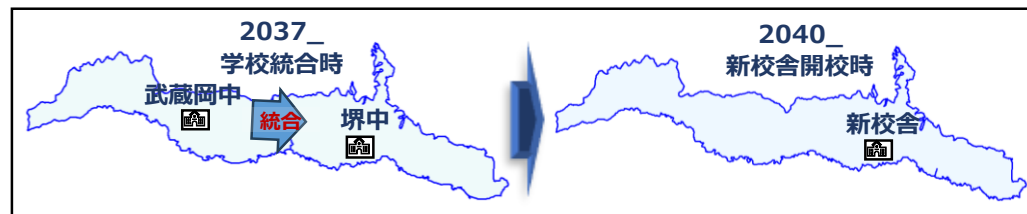
武蔵岡中学校
3学級 43人
△25.9%

堺中学校
14学級 495人
△16.0%

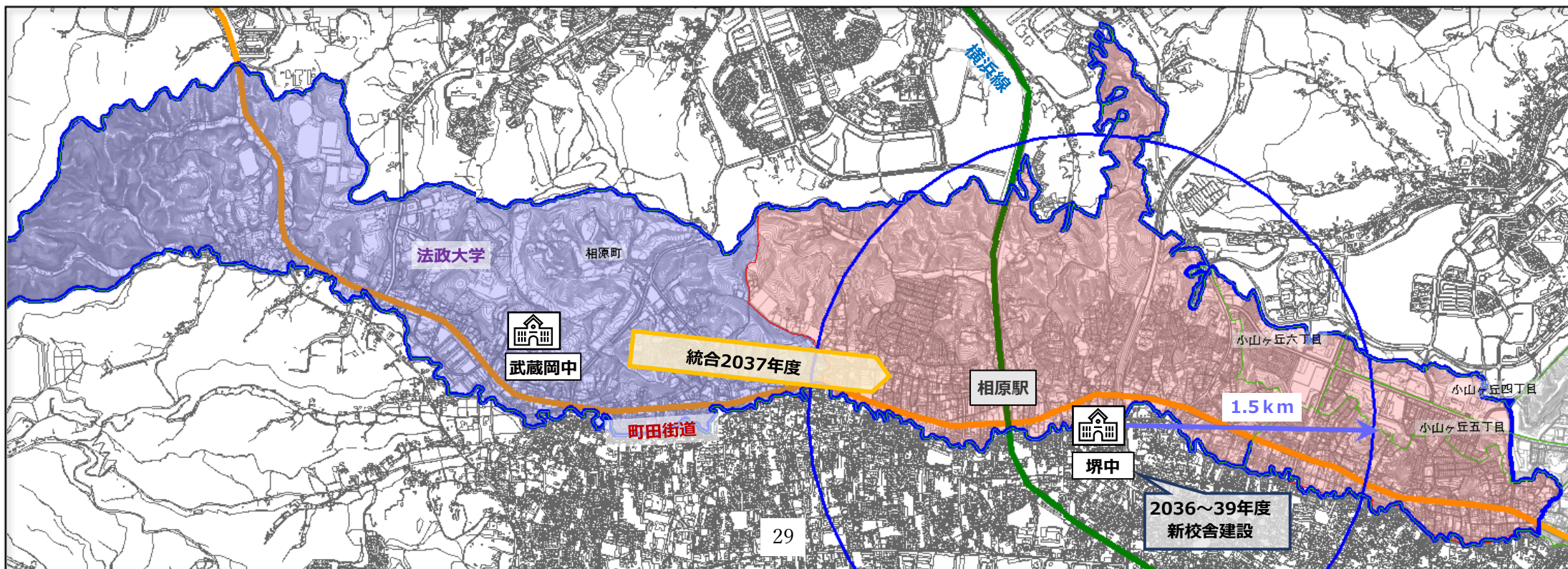
統合

2037年度

統合新設校
380名程度



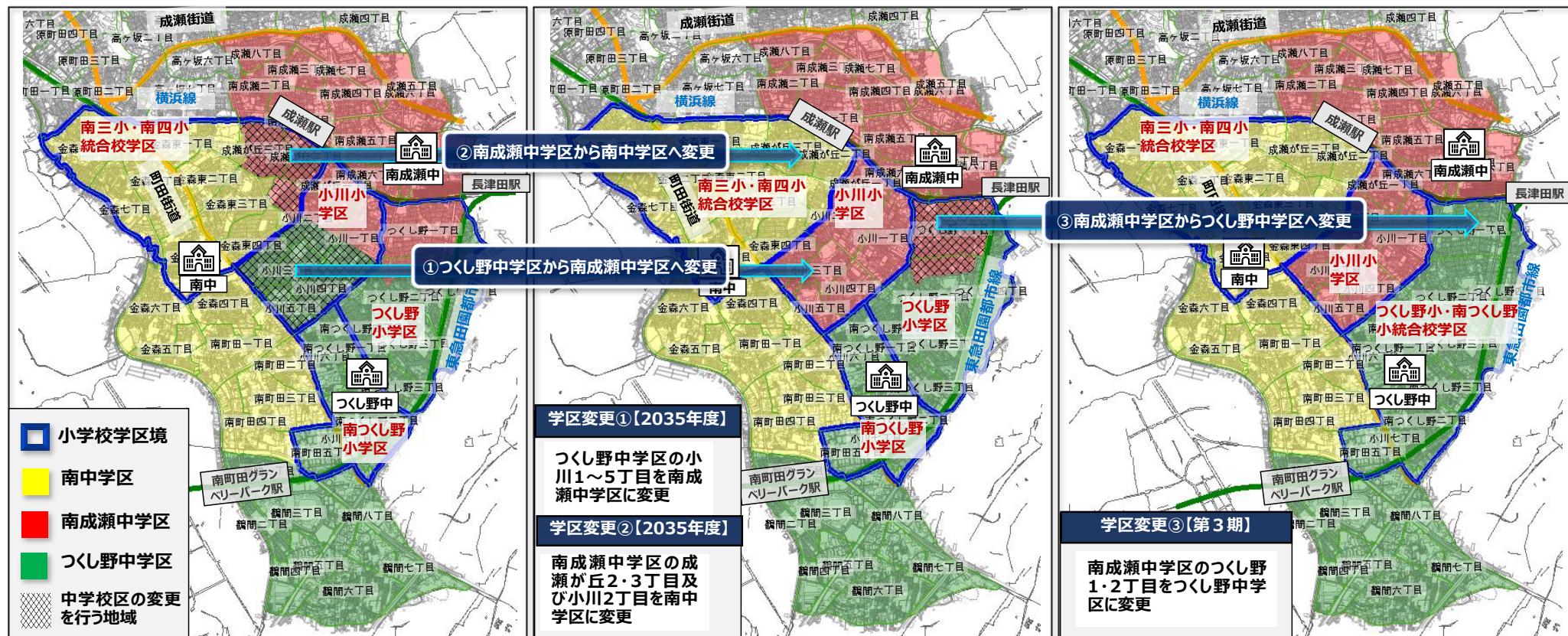
堺中と武蔵岡中の統合時期は、大戸小と武蔵岡中が小中一貫校であることから、大戸小と相原小の統合と同時期である2037年度とします。



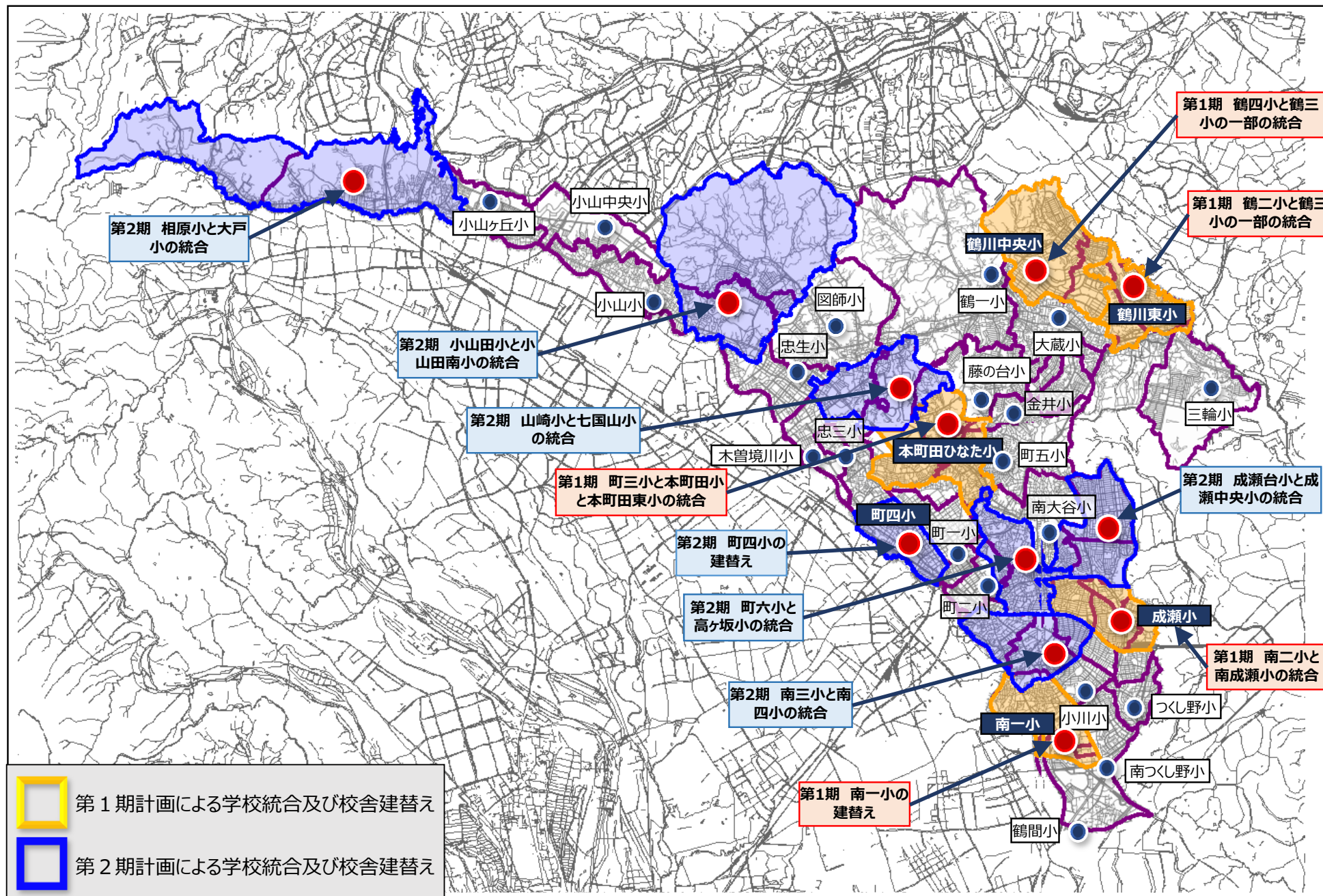
第2期の南第三小学校と南第四小学校の統合時及び第3期のつくし野小学校と南つくし野小学校統合時 に行う南地区の小・中学校区の整合について

南地区の小学校から継続する中学校について、南第四小学校は、南成瀬中学校と南中学校、小川小学校は、南成瀬中学校とつくし野中学校、つくし野小学校は、南成瀬中学校とつくし野中学校に分かれて進学する状況となっています。

第2期に予定している2034年度の南第三小学校と南第四小学校の統合時と、第3期に予定しているつくし野小学校と南つくし野小学校の統合時に、周辺の小学校も含めて継続する中学校区の変更（中学校区の変更は小学校の統合の翌年度）を行い、段階的に南地区の小・中学校区の整合を図ります。



第1期及び第2期計画による学校統合及び校舎建替え地区〔小学校〕



第1期及び第2期計画による学校統合及び校舎建替え地区〔中学校〕

